

「コロナ禍における旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項」に関する調査

第一部 「コロナ禍における日本人旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項」 に関する調査報告

第二部 「コロナ禍における訪日外国人旅行者の意向と沖縄が取り組むべき事項」 ～DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査 (2020 年度 新型コロナ影響度 特別調査) より～

－ 目 次 －

第一部 「コロナ禍における日本人旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項」に関する調査報告

第 1 章 調査要領	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要.....	1
(参考) 新型コロナウイルス感染症の国内発生動向	2
(参考) 新型コロナウイルス感染症の沖縄県内発生動向	2
(参考) 国内宿泊観光・レクリエーション延べ旅行者数の推移.....	2
(参考) 沖縄県入域観光客数の推移	2
第 2 章 調査要旨	3
第 3 章 沖縄旅行実施者及び国内旅行者全体の動向	5
1. 旅行者の属性と旅行内容	5
(1) 回答者属性	5
(2) 居住地.....	5
(3) 同行者.....	6
(4) 予約時期	6
(5) 旅行形態	7
(6) 旅行先での交通手段【複数回答】	7
(7) 宿泊数.....	8
(8) 宿泊施設【複数回答】	8
(9) 現地で楽しんだ活動【複数回答】	9
(10) 旅行費用	10
2. 満足度と再来訪意向.....	11
(1) 総合満足度	11
(2) 再来訪意向	11
3. コロナ禍における旅行意識・行動.....	12
(1) 実施した旅行へのコロナ禍の影響.....	12
(2) 旅行実施にあたっての気持ち【複数回答】	13
(3) 実施した旅行の感想【複数回答】	14
(4) 旅行中の新型コロナウイルス対策	15

第4章 沖縄旅行意向者の特徴・ニーズ	16
1. 沖縄旅行意向者の属性	16
(1) 性別・年代	16
(2) 居住地	16
(3) ライフステージ	17
(4) 世帯収入	17
(5) 旅行頻度	17
2. 沖縄旅行意向者のニーズ	18
(1) 旅行の動機【複数回答】	18
(2) 今後1～2年の間に行ってみたい旅行タイプ【複数回答】	19
3. コロナ収束後に行いたい活動と旅行先	20
第5章 受入側の沖縄が取り組むべき事項	22
結びに	34

第二部 「コロナ禍における訪日外国人旅行者の意向と沖縄が取り組むべき事項」
～DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査
(2020年度 新型コロナ影響度 特別調査) より～

第1章 調査要領	35
1. 調査の目的	35
2. データ提供を受けた調査の概要	36
(参考) 新型コロナウイルス感染症の世界の新規陽性者数(日別)の推移	37
(参考) 新型コロナウイルス感染症の国内の新規陽性者数(日別)の推移	37
第2章 調査要旨	38
第3章 調査結果	40
1. 全体調査の動向	40
(1) 新型コロナ終息後の海外観光旅行意向	40
(2) 新型コロナ終息後に観光旅行したい国・地域	41
(3) 新型コロナ終息後に観光のために日本を訪問したい理由	42
(4) 新型コロナ終息後に訪問したい日本の地域	44
2. 沖縄訪問希望者の特徴・ニーズ	47
(1) 新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること	47
(2) 交通事業者・宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策	51
第4章 受入側の沖縄が取り組むべき事項	52
結びに	64

第二部

第二部 「コロナ禍における訪日外国人旅行者の意向と沖縄が取り組むべき事項」
～DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査
(2020 年度 新型コロナ影響度 特別調査) より～

第 1 章 調査要領

1. 調査の目的

2020 年は、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という）の世界的な感染拡大により国際観光客数が激減し、世界中の観光事業者が大きな打撃を受ける事態となった。沖縄県も 1 月下旬からは新型コロナの影響によりクルーズ船の寄港キャンセルが相次いだ。3 月下旬からは全ての航空路線が運休、急激に外国客が減少し、4 月以降は台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置をとった影響から、外国人観光客が皆減となった。2021 年に入っても、世界各国の感染状況が収束しないことから入国制限が続いており、目下のところ回復の兆しは見通せない状況である。

株式会社日本政策投資銀行（以下、「DBJ」という）は 2012 年より継続的に「アジア 8 地域・訪日外国人旅行者の意向調査」（以下、「本調査」という）を公表し、2015 年からは公益財団法人日本交通公社（以下、「JTBF」という）と共同で本調査を実施している。2020 年度は、新型コロナが外国人旅行者の海外旅行意向に与えた影響を調査すべく、緊急アンケート調査を 2020 年 6 月に実施した。同調査には、沖縄への訪問意向者の回答も含まれていることから、DBJ 及び JTBF の協力により、調査データの提供を受け、沖縄への旅行に対する訪日外国人旅行者の意向調査を取り纏め、受入側の沖縄が取り組むべき事項をまとめた。

なお、全体の調査結果の詳細については、「DBJ・JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（2020 年度 新型コロナ影響度 特別調査）」(2020 年 8 月)を、また沖縄以外の地域の意向調査については、DBJ 各支店公表の調査をご参照いただきたい。

2. データ提供を受けた調査の概要

- ・調査名：DBJ・JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査
(2020 年度新型コロナ影響度特別調査)
- ・調査実施者：株式会社日本政策投資銀行（D B J）・公益財団法人日本交通公社（J T B F）
- ・調査方法：インターネットによる調査
- ・実施時期：2020 年 6 月 2 日～6 月 12 日
- ・調査地域：韓国、中国（上海・北京のみ）、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスの 12 地域
(注) 中国は北京および上海在住者のみ（割合は北京 50%：上海 50%）
- ・調査対象者：20 歳～59 歳の男女、かつ、海外旅行経験者
(注) 中国－香港－マカオ間、マレーシア－シンガポール間、タイ－マレーシア間、アメリカ－カナダ・メキシコ・ハワイ・グアム間、オーストラリア－ニュージーランド間、イギリス・フランス－欧州各国間の旅行については、海外旅行経験から除く。
- ・有効回答者数：上記各地域に居住する住民計 6,266 人
- ・協力実査会社：楽天インサイト株式会社

図表 1 本調査の有効回答者数

有効回答者数															(人)	
項目	全体	アジア全体										欧米豪全体				
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア		アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス		
男性	3,177	2,101	266	264	261	252	264	266	263	265	1,076	271	268	259	278	
女性	3,089	2,093	263	284	269	259	257	251	257	253	996	249	257	246	244	
総計	6,266	4,194	529	548	530	511	521	517	520	518	2,072	520	525	505	522	

うち訪日希望者															(人)
項目	全体	アジア全体									欧米豪全体				
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア		アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス	
男性	1,365	1,108	66	165	181	180	174	120	116	106	257	61	57	71	68
女性	1,219	1,043	47	169	187	179	149	115	95	102	176	36	60	39	41
総計	2,584	2,151	113	334	368	359	323	235	211	208	433	97	117	110	109

※新型コロナ終息後に海外観光旅行したい地域として「日本」を選択した者

うち沖縄訪問希望者														(人)		
項目	全体	アジア全体										欧米豪全体				
			韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア		アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス	
男性	312	261	17	25	41	39	55	31	27	26	51	8	12	15	16	
女性	317	281	19	37	51	39	33	43	26	33	36	6	13	7	10	
総計	629	542	36	62	92	78	88	74	53	59	87	14	25	22	26	

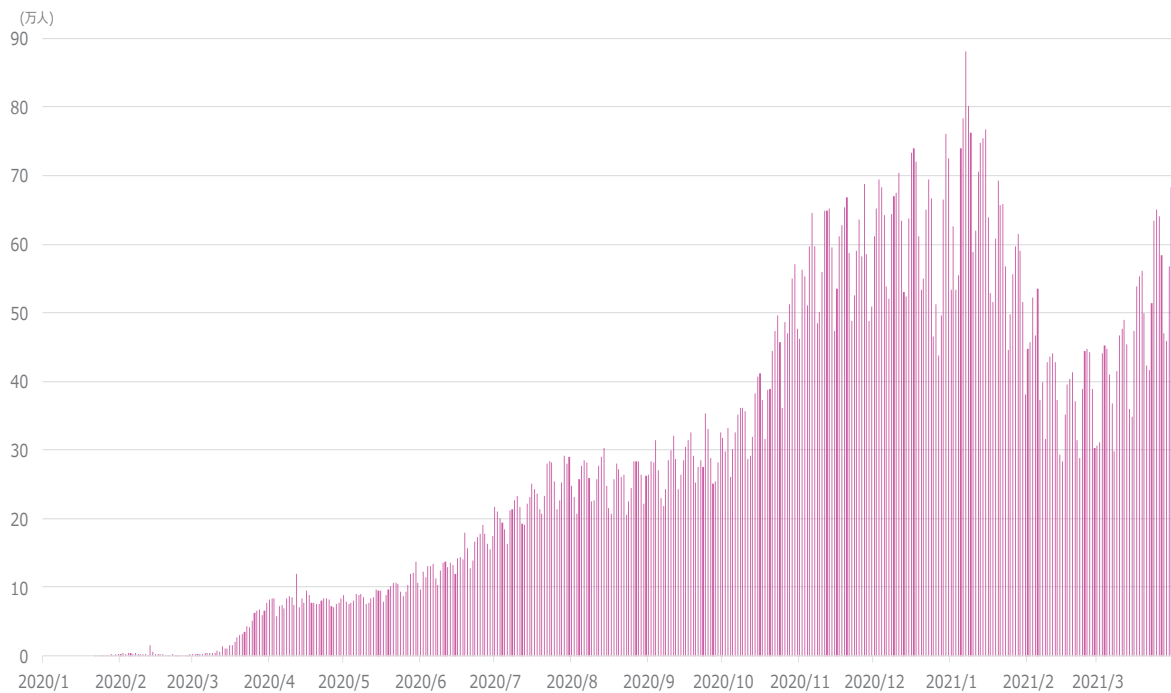
※新型コロナ終息後に海外観光旅行したい日本の地域として「沖縄」を選択した者

図表 2 本調査の設問の地域区分

東京
東京近郊（例：横浜、箱根、軽井沢、日光）
北海道（例：札幌、函館、ニセコ、知床）
東北（例：仙台、青森、秋田、山形、岩手、福島）
新潟（例：妙高、湯沢、佐渡）
北陸（例：金沢、富山、福井、立山・黒部）
中部（例：名古屋、飛騨/高山、伊勢志摩、静岡）
関西（例：京都、大阪、奈良、神戸）
中国（例：広島、岡山、鳥取、松江）
四国（例：香川、直島、愛媛、徳島、高知）
九州（例：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）
沖縄

※左記（ ）内の地名は、あくまでアンケート回答者が回答しやすいように例示として示したものです。

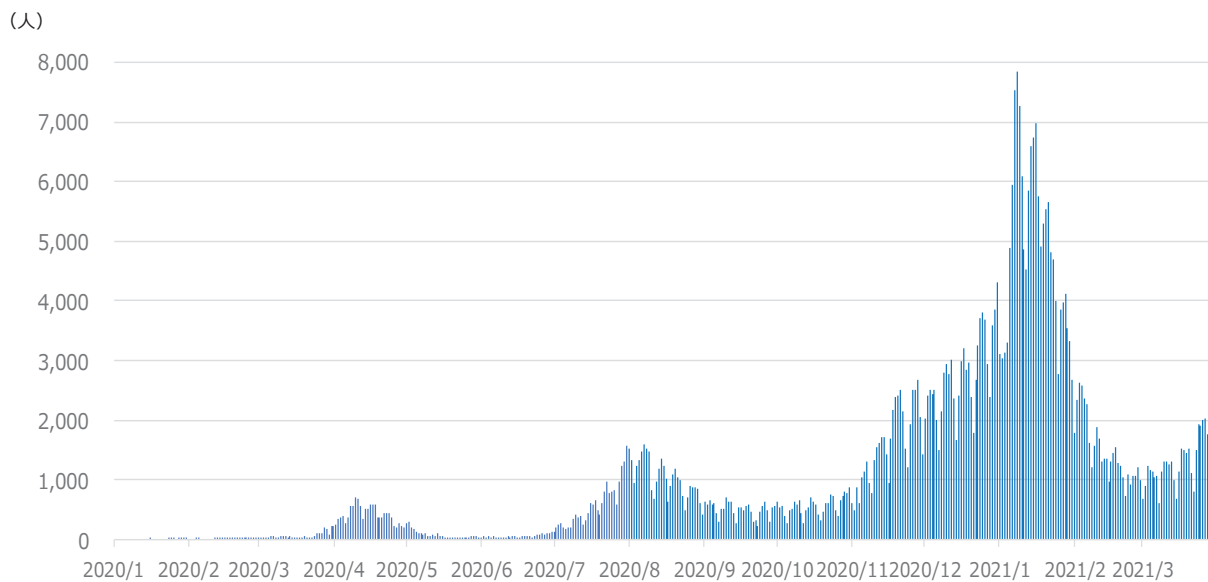
(参考) 新型コロナウイルス感染症の世界の新規陽性者数(日別)の推移



出典：Our World in Data のオープンデータを基に当公庫作成(2021 年 3 月 31 日までの情報)

<https://ourworldindata.org/coronavirus-source-data>

(参考) 新型コロナウイルス感染症の国内の新規陽性者数(日別)の推移



出典：厚生労働省オープンデータを基に当公庫作成 <https://covid19.mhlw.go.jp/>(2021 年 3 月 31 日までの情報)

注) ～2020 年 7 月 31 日：PCR 検査陽性者数(単日)

2020 年 8 月 1 日～：新規陽性者数の推移(日別)

第2章 調査要旨

今般、(株)日本政策投資銀行（以下、「DBJ」）と（公財）日本交通公社（以下、「JTBF」）が2020年6月に実施した「DBJ・JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度新型コロナウイルス影響度特別調査）」の調査データの提供を受け、沖縄への旅行に対する訪日外国人旅行者の意向調査を取り纏めた。

全体調査の動向

- ・ 新型コロナ終息後に海外観光旅行したい国・地域として、日本はアジア居住者では1位、欧米豪居住者でも2位と、コロナ禍でも日本の人気は高い。
- ・ 新型コロナ終息後に観光のために日本を訪問したい理由として、アジア居住者は、「行きたい観光地や観光施設がある」「食事が美味しい」「以前も旅行したことがあり気に入った」「買い物がしたい」が上位に挙がった。国別にみると、「旅行経験があり気に入った」が上位に挙がっており、リピーターが多いことがわかる。一方、欧米豪居住者は、「体験したいツアーやアクティビティがあるから」「すなわちコト消費が1位、次いで「行きたい観光地や観光施設があるから」「食事が美味しいから」の順となった。なおアジア、欧米豪ともに「清潔だから」「治安がよいから」も上位に挙がっており、日本は「安全性」に対するポテンシャルが高い。一方で、「高度な医療体制が整備されているから」「新型コロナウイルス被害の少ない国だったから」「多言語に対応しているから」の割合は低い。
- ・ 新型コロナ終息後に、訪問したい日本の地域を訪ねたところ、東京（東京近郊を含む）、北海道、関西の人気が高く、九州、沖縄と続いた。東アジア居住者については、九州が沖縄を上回っているが、東南アジアについては沖縄への訪問意向が高い。欧米豪については、東京、関西、北海道に次ぎ、中国地方、沖縄の順となった。
- ・ 訪日経験者と訪日未経験者に分けたところ、訪日未経験者は、多くの国で東京への訪問意向が50%を超えている。沖縄は全体では5位で概ね東京、北海道、関西に続いており、特に東南アジアの居住者については、沖縄訪問意向が比較的上位に位置している。
- ・ 訪日経験者は、全体・アジア居住者で東京が50%を下回った一方、地方の回答が概ね2桁台となっており、訪日経験があると地方への訪問意向が高まる傾向がみられた。沖縄は全体で6位、国別にみると、タイ、シンガポール、マレーシアで東京、北海道、関西に次ぐ4位、インドネシアでも5位となり、訪日経験者でも東南アジア居住者の沖縄訪問意向が高い結果となった。また、欧米豪では、フランス居住者が東京に次いで2位となった。

沖縄訪問希望者の特徴・ニーズ

- ・ 沖縄訪問希望者が、新型コロナ終息後に沖縄旅行に期待することは、アジア・欧米豪いずれにおいても「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウィルス対策全般の継続」がトップで、「文化体験アクティビティの種類や質の充実、ブラッシュアップ」が続いた。第一部「コロナ禍における日本人旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項に関する調査」では、沖縄旅行意向者の今後行ってみたい旅行のタイプは「海浜リゾート」が最も多く挙がっていたが、海外からみた場合には沖縄はあくまでも「日本」であり、「文化」への期待も高いことが窺える。
- ・ 国別の回答をみると、どの国でも「ウィルス対策全般の継続」が上位となっているほか、「混雑回避の措置」も挙がっており、安全・安心への取組、3密回避の取組が求められる。また中国、韓国で「自然アクティビティ」も上位に位置しているが、全般的には「文化体験アクティビティ」が上位に挙がった。このほか、韓国、アメリカの1位、イギリスの2位には「観光地へのアクセス改善」が挙がった。新型コロナ終息後は感染リスクを考慮して近い人との少人数旅行化が加速していくことが推察されることから、利便性の高い周遊型の公共交通の環境整備は不可欠であろう。
- ・ 交通事業者及び宿泊事業者が取るべき新型コロナ対策については、全般的に選択率が高く「大変そう思う」「そう思う」の回答が、アジアでは大半の項目で9割程度、欧米豪でも8割程度となった。利用する観光客だけではなく、従業員の健康状態の確認や従業員のマスク・手袋の着用など従業員の対策への期待も高いほか、感染防止策の多言語での情報発信、体調不良時の多言語医療サービス提供へのニーズも高い。このほか、密集を避けるための人数規制や飲食提供の際の「個食・個包装での提供」についても、今後「密や接触を避ける取組」として対策が求められよう。

今回の調査結果を踏まえ、受入側の沖縄がインバウンドの受入再開までの準備期間に取り組むべき事項を下記の7つの視点として提言する。

- ① 訪日経験者／未経験者、国・地域別、年代別など、ターゲット層毎の適切な需要の維持・喚起、日本政府観光局（JNTO）や国内他地域と連携したプロモーション
- ② 日本国内及び沖縄滞在中の安全・安心の確保と周知
- ③ 質の高い観光コンテンツ、沖縄文化体験アクティビティのブラッシュアップ
- ④ 二次交通の環境整備
- ⑤ 外国人にも対応できる医療体制の整備
- ⑥ 外国人のニーズへの準備・対応
- ⑦ 在日外国人や在沖外国人の観光受入による、①～⑥の取組の実践・ブラッシュアップ

以上

[担当：伊東]

第3章 調査結果

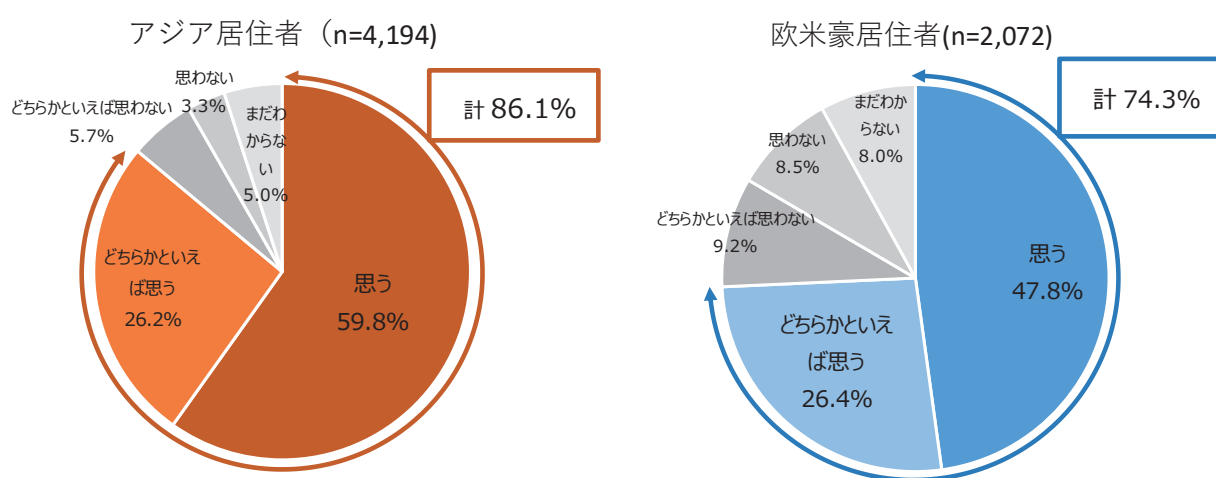
本章では、新型コロナ終息後のインバウンドの訪日意向について、DBJ と JTBF が調査・分析した本調査の結果から、沖縄観光に関連する内容について取り纏めた。

1. 全体調査の動向

(1) 新型コロナ終息後の海外観光旅行意向

新型コロナ終息後の海外観光旅行の意向（「思う」と「どちらかといえば思う」の合計）は、アジア居住者で 86.1%、欧米豪居住者で 74.3%と、いずれも高い傾向にあり、アジア居住者の方が欧米豪居住者より強い意向を示している。

図表 3 新型コロナ流行終息後における海外観光旅行の意向（回答者全員）

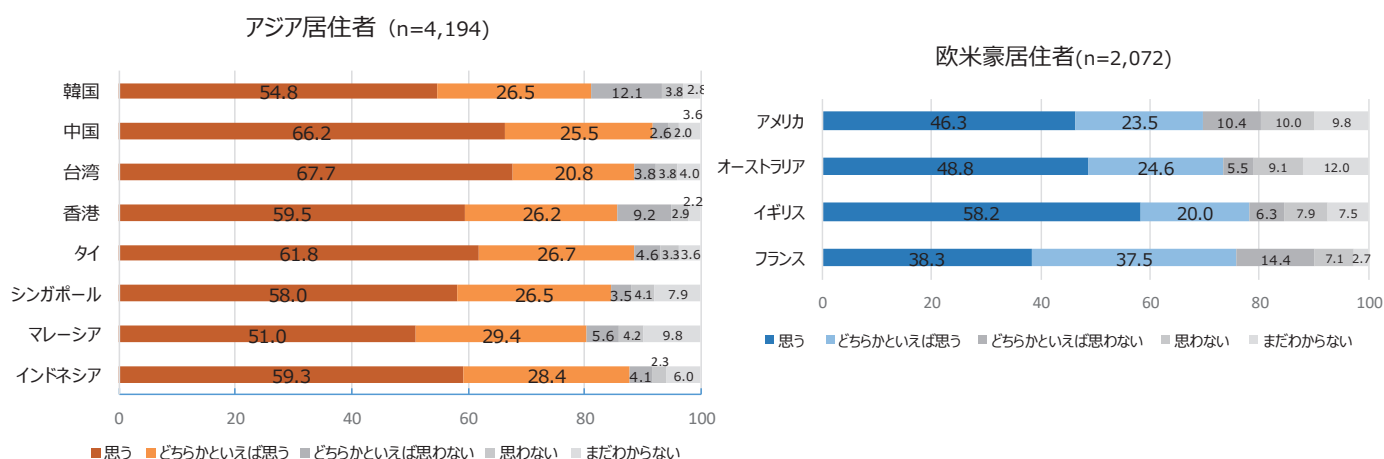


注) 回答はひとつ

国別にみると、アジア居住者では全ての国で「行きたいと思う」が 50%を超えており、「思う」「どちらかといえば思う」の合計も中国では 90%を超え、他のアジア諸国も 80%を上回っている。

一方、欧米豪居住者は、アメリカ、オーストラリア、フランスで「行きたいと思う」が 50%を下回り、「思う」「どちらかといえば思う」の合計ではアメリカが 7 割を下回り、他の 3 カ国も 70%台となっている。

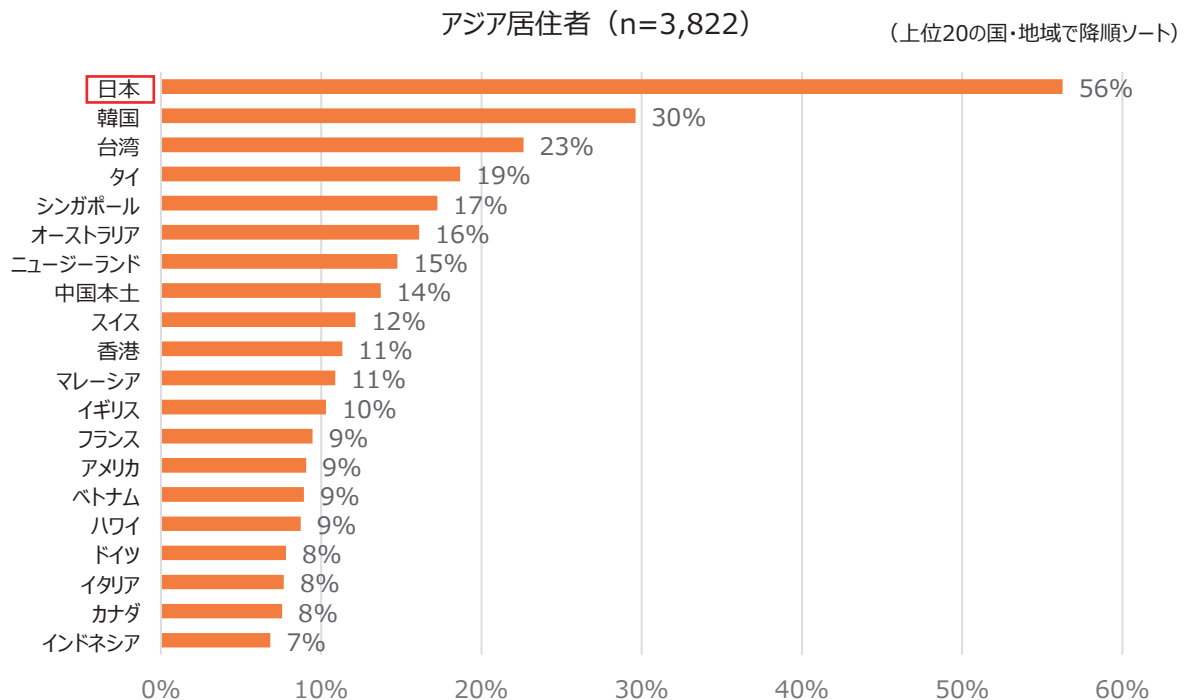
図表 4 新型コロナ流行終息後における海外観光旅行の意向（回答者全員・国別）



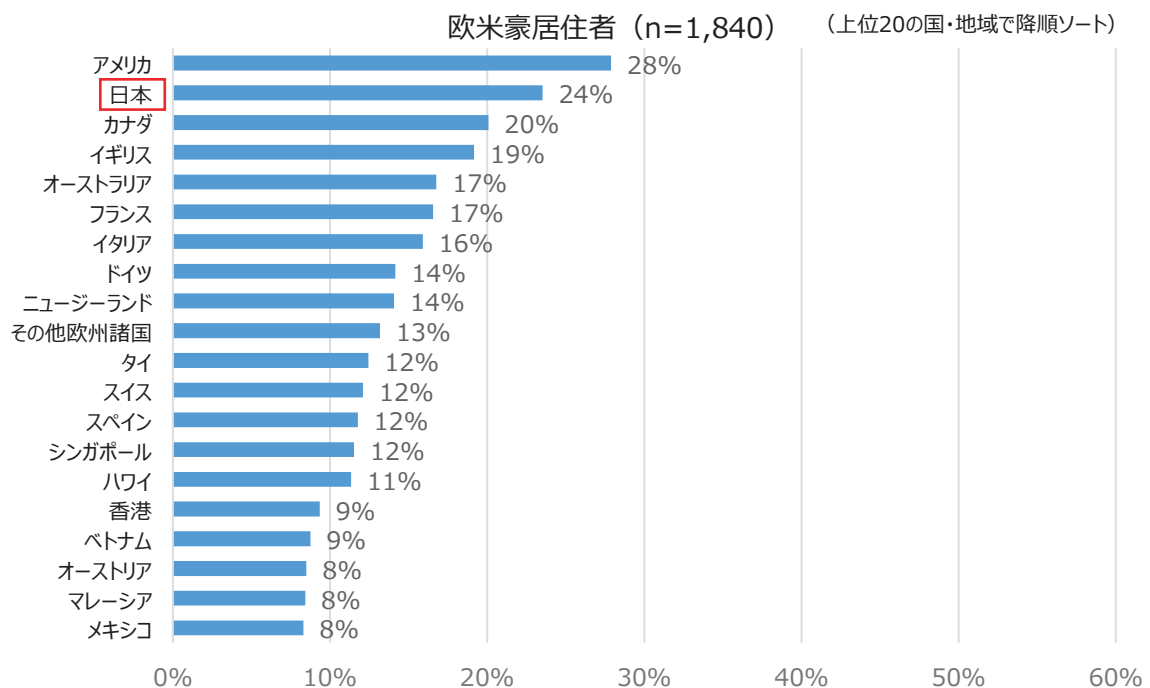
(2) 新型コロナ終息後に観光旅行したい国・地域

新型コロナ終息後に海外観光旅行したい国・地域として、日本はアジア居住者では 1 位、欧米豪居住者でも 2 位と、コロナ禍でも日本の人気は高い。

図表 5 【海外旅行希望者】新型コロナの流行終息後に、観光旅行したい国・地域
(アジア居住者)



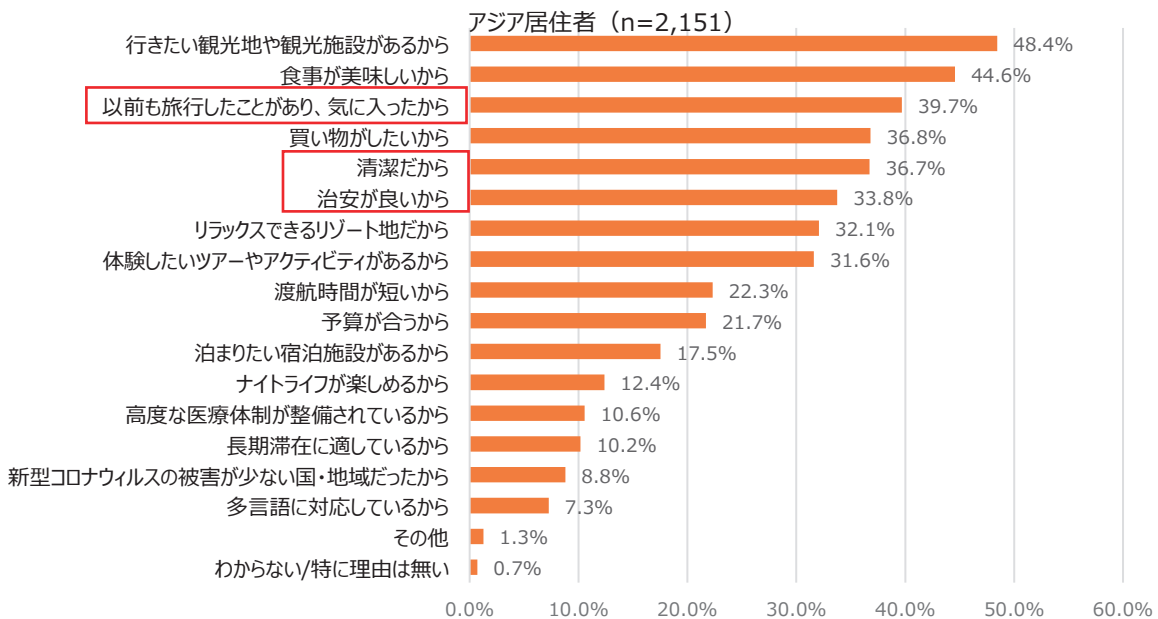
図表 6 【海外旅行希望者】新型コロナの流行終息後に、観光旅行したい国・地域
(欧米豪居住者)



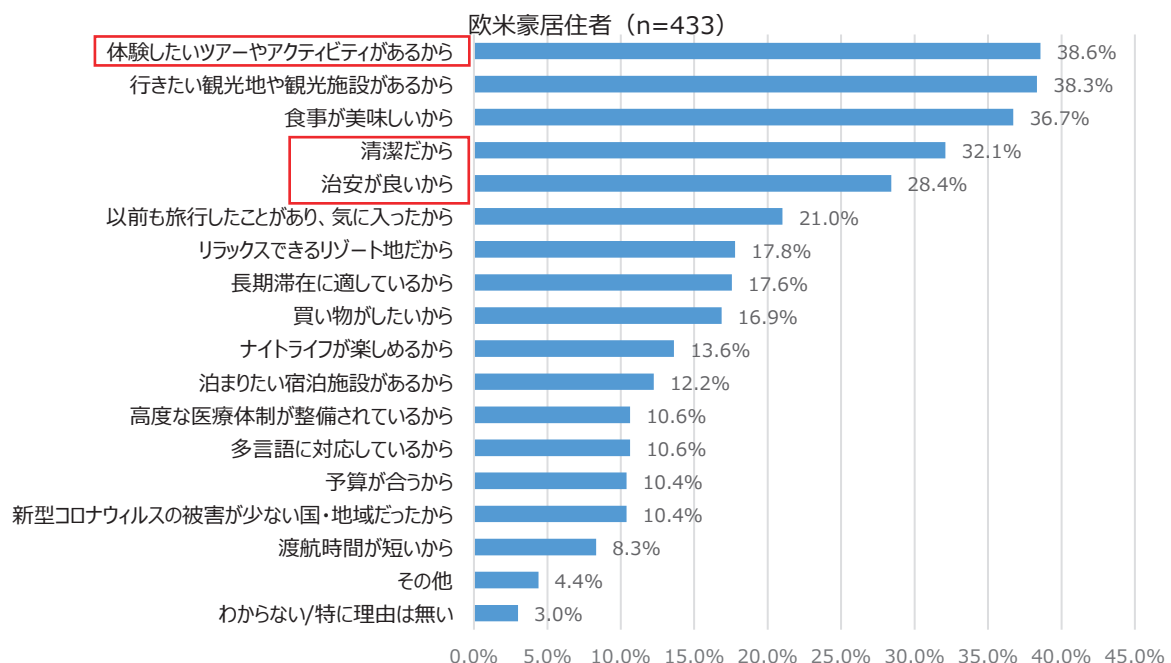
(3) 新型コロナ終息後に観光のために日本を訪れたい理由

新型コロナ終息後に観光のために日本を訪れたい理由として、アジア居住者は、「行きたい観光地や観光施設がある」「食事が美味しい」「以前も旅行したことがあり気に入った」「買い物したい」が上位に挙がった。一方、欧米豪居住者は、「体験したいツアーやアクティビティがあるから」、すなわちコト消費が1位、次いで「行きたい観光地や観光施設があるから」「食事が美味しいから」の順となった。なおアジア、欧米豪ともに「清潔だから」「治安がよいから」も上位に挙がっており、日本は「安全性」に対するポテンシャルが高い。一方で、「高度な医療体制が整備されているから」「新型コロナウイルス被害の少ない国だったから」「多言語に対応しているから」の割合は低い。

図表7 【海外旅行希望者】新型コロナの流行終息後に、観光のために日本を訪れたい理由（アジア居住者）



図表8 【海外旅行希望者】新型コロナの流行終息後に、観光のために日本を訪れたい理由（欧米豪居住者）



国別にみると、「以前も旅行経験があり気に入ったから」は韓国及び台湾で1位、他のアジア諸国も上位に挙がっており、リピーターが多いことがわかる。「体験したいツアーやアクティビティがあるから」は、イギリスで1位、アメリカで2位、フランスで3位、オーストラリアで4位と欧米豪の各国でアジア各国より上位に挙がった。

図表9 【訪日旅行希望者】新型コロナの流行終息後に、観光のために日本を訪問したい理由（国別）

		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
アジア	韓国 (n=113)	旅行経験があり気に入った 38.9%	渡航時間が短い 34.5%	行きたい場所がある 32.7%	食事が美味しい 31.0%	買い物したい 28.3%	清潔だから 22.1%
	中国 (n=334)	リラックスできるリゾート地 34.4%	食事が美味しい 30.8%	買い物したい 30.2%	旅行経験があり気に入った 29.9%	行きたい場所がある 29.3%	体験したいツアーなどがある 25.7%
	台湾 (n=368)	旅行経験があり気に入った 55.4%	行きたい場所がある 52.7%	リラックスできるリゾート地 45.9%	渡航時間が短い 45.7%	食事が美味しい 45.1%	体験したいツアーなどがある 39.1%
	香港 (n=359)	食事が美味しい 59.1%	買い物したい 56.8%	旅行経験があり気に入った 49.3%	リラックスできるリゾート地 47.1%	清潔だから 42.6%	行きたい場所がある 42.1%
	タイ (n=323)	行きたい場所がある 58.5%	食事が美味しい 40.9%	買い物したい 38.4%	旅行経験があり気に入った 35.6%	清潔だから 34.7%	治安が良い 33.1%
	シンガポール (n=235)	食事が美味しい 61.7%	行きたい場所がある 50.2%	治安が良い 42.1%	旅行経験があり気に入った 41.3%	清潔だから 40.4%	体験したいツアーなどがある 39.1%
	マレーシア (n=211)	行きたい場所がある 58.8%	清潔だから 52.6%	食事が美味しい 45.0%	治安が良い 43.6%	体験したいツアーなどがある 40.8%	リラックスできるリゾート地 36.0%
	インドネシア (n=208)	行きたい場所がある 63.0%	清潔だから 49.5%	食事が美味しい 34.1%	治安が良い 31.7%	旅行経験があり気に入った 26.4%	体験したいツアーなどがある 26.0%
欧米豪	アメリカ (n=97)	食事が美味しい 33.0%	体験したいツアーなどがある 30.9%	旅行経験があり気に入った、 買い物したい 25.8%	行きたい場所がある 24.7%	清潔だから 22.7%	
	オーストラリア (n=117)	行きたい場所がある 41.0%	食事が美味しい 40.2%	清潔だから 36.8%	体験したいツアーなどがある 35.0%	治安が良い 33.3%	旅行経験があり気に入った 22.2%
	イギリス (n=110)	体験したいツアーなどがある 50.0%	行きたい場所がある 42.7%	食事が美味しい 36.4%	清潔だから 28.2%	治安が良い 25.5%	リラックスできるリゾート地、長期滞在に適している 16.4%
	フランス (n=109)	行きたい場所がある 43.1%	清潔だから 39.4%	体験したいツアーなどがある 37.6%	食事が美味しい 36.7%	治安が良い 32.1%	リラックスできるリゾート地、長期滞在に適している 22.9%

(4) 新型コロナ終息後に訪問したい日本の地域

新型コロナの流行終息後に訪問したい日本の地域を訪ねたところ、東京（東京近郊を含む）、北海道、関西の人气が高く、九州、沖縄と続いた。東アジア居住者（韓国、中国、台湾、香港）については、九州が沖縄を上回っているが、東南アジア居住者（タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア）は沖縄への訪問意向が高い。欧米豪居住者は、東京、関西、北海道に続き、中国地方、沖縄の順となった。

図表 10 【訪日旅行希望者】新型コロナ終息後に訪問したい日本の地域

順位	全体 (n=2,584)		アジア居住者 (n=2,151)		韓国		中国		台湾	
1位	東京	46.6 %	東京	45.3 %	東京	42.5 %	東京	41.3 %	北海道	45.4 %
2位	北海道	41.8 %	北海道	45.2 %	九州	40.7 %	北海道	38.3 %	関西	40.2 %
3位	関西	36.6 %	関西	37.8 %	北海道	37.2 %	関西	36.5 %	東京	37.5 %
4位	東京近郊	29.8 %	東京近郊	29.8 %	東京近郊	31.9 %	東京近郊	31.4 %	東京近郊	31.3 %
5位	九州	25.9 %	九州	27.3 %	沖縄	31.9 %	九州	29.3 %	九州	29.1 %
6位	沖縄	24.3 %	沖縄	25.2 %	関西	31.0 %	中部	27.2 %	沖縄	25.0 %
7位	中部	17.5 %	中部	18.4 %	中部	16.8 %	沖縄	18.6 %	中部	22.3 %
8位	中国	14.6 %	東北	14.2 %	中国	13.3 %	中国	17.7 %	東北	20.9 %
9位	東北	14.0 %	中国	13.1 %	北陸	11.5 %	北陸	15.6 %	北陸	16.3 %
10位	四国	13.2 %	四国	12.9 %	東北	9.7 %	四国	15.6 %	四国	13.3 %
11位	北陸	12.5 %	北陸	12.1 %	新潟	8.8 %	東北	14.7 %	中国	11.7 %
12位	新潟	9.9 %	新潟	9.7 %	四国	6.2 %	新潟	12.0 %	新潟	10.3 %

順位	アジア居住者									
	香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア	
1位	東京	41.2 %	北海道	55.4 %	北海道	57.0 %	北海道	50.7 %	東京	55.3 %
2位	関西	37.3 %	東京	50.8 %	東京	54.5 %	東京	45.5 %	東京近郊	45.2 %
3位	北海道	35.9 %	関西	35.6 %	関西	36.6 %	関西	39.3 %	関西	43.8 %
4位	九州	31.8 %	東京近郊	28.8 %	沖縄	31.5 %	沖縄	25.1 %	北海道	41.3 %
5位	東京近郊	22.8 %	沖縄	27.2 %	東京近郊	29.8 %	東京近郊	21.3 %	沖縄	28.4 %
6位	沖縄	21.7 %	九州	26.9 %	九州	21.7 %	九州	18.5 %	九州	22.1 %
7位	中部	21.2 %	東北	15.5 %	中部	14.0 %	中部	14.7 %	中部	15.9 %
8位	四国	15.3 %	四国	13.0 %	四国	13.6 %	中国	10.4 %	中国	15.4 %
9位	東北	13.9 %	中国	11.5 %	東北	13.2 %	北陸	7.6 %	四国	14.4 %
10位	中国	12.3 %	新潟	11.5 %	中国	12.3 %	東北	7.1 %	東北	10.6 %
11位	北陸	12.0 %	北陸	9.6 %	北陸	11.1 %	新潟	6.2 %	北陸	9.1 %
12位	新潟	8.9 %	中部	9.3 %	新潟	9.8 %	四国	5.2 %	新潟	7.2 %

順位	欧米豪居住者 (n=433)		アメリカ		オーストラリア		イギリス		フランス	
1位	東京	53.1 %	東京	56.7 %	東京	56.4 %	東京	52.7 %	東京	46.8 %
2位	関西	30.3 %	東京近郊	25.8 %	東京近郊	36.8 %	関西	37.3 %	東京近郊	27.5 %
3位	東京近郊	30.0 %	関西	24.7 %	関西	35.9 %	東京近郊	29.1 %	沖縄	23.9 %
4位	北海道	24.7 %	北海道	21.6 %	北海道	32.5 %	北海道	23.6 %	関西	22.0 %
5位	中国	21.9 %	九州	19.6 %	中国	29.1 %	中国	20.9 %	北海道	20.2 %
6位	沖縄	20.1 %	北陸	18.6 %	九州	22.2 %	沖縄	20.0 %	中国	20.2 %
7位	九州	18.5 %	東北	17.5 %	沖縄	21.4 %	東北	14.5 %	九州	18.3 %
8位	北陸	14.8 %	新潟	17.5 %	中部	17.9 %	北陸	13.6 %	四国	15.6 %
9位	四国	14.3 %	四国	17.5 %	四国	14.5 %	九州	13.6 %	北陸	13.8 %
10位	東北	13.2 %	中国	16.5 %	北陸	13.7 %	新潟	10.0 %	東北	8.3 %
11位	中部	12.9 %	中部	15.5 %	東北	12.8 %	中部	10.0 %	中部	8.3 %
12位	新潟	11.3 %	沖縄	14.4 %	新潟	11.1 %	四国	10.0 %	新潟	7.3 %

訪日経験者と訪日未経験者に分けたところ、訪日未経験者は、多くの国で東京への訪問意向が50%を超えているが、国別にみると、台湾、タイでは北海道が東京を上回っている。沖縄は全体で5位で、国別では中国、アメリカで希望者が少ないが、それ以外の国では、概ね東京、北海道、関西に続き、特に東南アジアの居住者については、沖縄訪問意向が比較的上位に位置している。

図表 11 【訪日旅行希望者】新型コロナ終息後に訪問したい日本の地域（訪日未経験者）

順位	全体 (n=830)		アジア居住者 (n=581)		韓国		中国		台湾	
1位	東京	51.1 %	東京	50.6 %	東京	64.7 %	関西	36.5 %	北海道	45.8 %
2位	北海道	37.6 %	北海道	45.1 %	東京近郊	41.2 %	東京	32.7 %	関西	35.4 %
3位	関西	36.4 %	関西	39.4 %	沖縄	35.3 %	九州	26.9 %	東京近郊	31.3 %
4位	東京近郊	29.6 %	東京近郊	28.9 %	九州	29.4 %	北海道	26.9 %	東京	29.2 %
5位	沖縄	21.8 %	九州	23.2 %	北海道	23.5 %	中部	21.2 %	沖縄	27.1 %
6位	九州	21.1 %	沖縄	23.1 %	関西	17.6 %	中国	19.2 %	九州	27.1 %
7位	中国	14.0 %	中部	12.9 %	東北	11.8 %	東京近郊	17.3 %	中部	16.7 %
8位	中部	11.7 %	中国	11.0 %	北陸	11.8 %	北陸	11.5 %	東北	12.5 %
9位	東北	9.9 %	四国	9.3 %	中国	5.9 %	新潟	9.6 %	中国	10.4 %
10位	四国	9.8 %	東北	8.8 %	四国	5.9 %	東北	7.7 %	北陸	6.3 %
11位	北陸	9.3 %	北陸	7.4 %	新潟	5.9 %	四国	7.7 %	新潟	6.3 %
12位	新潟	7.0 %	新潟	6.4 %	中部	0.0 %	沖縄	5.8 %	四国	6.3 %

順位	香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア	
1位	東京	56.1 %	北海道	62.4 %	東京	64.3 %	東京	50.4 %	東京	58.1 %
2位	関西	34.1 %	東京	45.2 %	北海道	52.4 %	北海道	46.5 %	関西	47.9 %
3位	九州	34.1 %	関西	40.9 %	関西	36.9 %	関西	39.5 %	東京近郊	46.2 %
4位	沖縄	26.8 %	九州	25.8 %	東京近郊	33.3 %	沖縄	21.7 %	北海道	41.9 %
5位	北海道	26.8 %	東京近郊	24.7 %	沖縄	32.1 %	東京近郊	20.2 %	沖縄	27.4 %
6位	中部	19.5 %	沖縄	15.1 %	九州	25.0 %	九州	15.5 %	九州	20.5 %
7位	四国	17.1 %	東北	12.9 %	四国	17.9 %	中部	11.6 %	中国	14.5 %
8位	東京近郊	14.6 %	中部	10.8 %	東北	14.3 %	中国	7.8 %	中部	11.1 %
9位	中国	4.9 %	中国	10.8 %	中部	11.9 %	北陸	7.0 %	四国	8.5 %
10位	東北	2.4 %	四国	9.7 %	新潟	11.9 %	東北	5.4 %	東北	6.0 %
11位	新潟	2.4 %	新潟	9.7 %	北陸	11.9 %	四国	3.9 %	北陸	5.1 %
12位	北陸	0.0 %	北陸	7.5 %	中国	10.7 %	新潟	1.6 %	新潟	5.1 %

順位	欧米豪居住者 (n=249)		アメリカ		オーストラリア		イギリス		フランス	
1位	東京	52.2 %	東京	51.2 %	東京	56.2 %	東京	50.6 %	東京	50.0 %
2位	東京近郊	31.3 %	関西	25.6 %	東京近郊	37.0 %	関西	34.2 %	東京近郊	31.5 %
3位	関西	29.3 %	東京近郊	23.3 %	関西	31.5 %	東京近郊	30.4 %	関西	22.2 %
4位	中国	20.9 %	東北	20.9 %	中国	24.7 %	北海道	24.1 %	沖縄	20.4 %
5位	北海道	20.1 %	中国	18.6 %	沖縄	23.3 %	沖縄	20.3 %	中国	18.5 %
6位	沖縄	18.9 %	北海道	18.6 %	九州	20.5 %	中国	20.3 %	北海道	16.7 %
7位	九州	16.1 %	九州	18.6 %	北海道	19.2 %	北陸	16.5 %	九州	11.1 %
8位	北陸	13.7 %	北陸	18.6 %	四国	13.7 %	九州	13.9 %	北陸	9.3 %
9位	東北	12.4 %	新潟	16.3 %	中部	13.7 %	東北	12.7 %	四国	9.3 %
10位	四国	10.8 %	四国	11.6 %	東北	11.0 %	四国	8.9 %	東北	7.4 %
11位	中部	8.8 %	沖縄	7.0 %	北陸	11.0 %	中部	8.9 %	中部	3.7 %
12位	新潟	8.4 %	中部	7.0 %	新潟	8.2 %	新潟	7.6 %	新潟	3.7 %

訪日経験者は、全体・アジア居住者で東京が50%を下回った一方、地方の回答が概ね2桁台となっており、訪日経験があると地方への訪問意向が高まる傾向がみられた。沖縄は全体で6位、国別に見ると、タイ、シンガポール、マレーシアで東京、北海道、関西に次ぐ4位、インドネシアでも5位となり、訪日経験者でも東南アジア居住者の沖縄訪問意向が高い結果となった。また、欧米豪では、フランス居住者が東京に次いで2位となった。

図表12 【訪日旅行希望者】新型コロナ終息後に訪問したい日本の地域（訪日経験者）

順位	全体 (n=1,754)		アジア居住者 (n=1,570)		韓国		中国		台湾	
1位	東京	44.5 %	北海道	45.2 %	九州	42.7 %	東京	42.9 %	北海道	45.3 %
2位	北海道	43.7 %	東京	43.4 %	北海道	39.6 %	北海道	40.4 %	関西	40.9 %
3位	関西	36.7 %	関西	37.3 %	東京	38.5 %	関西	36.5 %	東京	38.8 %
4位	東京近郊	29.9 %	東京近郊	30.1 %	関西	33.3 %	東京近郊	34.0 %	東京近郊	31.3 %
5位	九州	28.1 %	九州	28.9 %	沖縄	31.3 %	九州	29.8 %	九州	29.4 %
6位	沖縄	25.5 %	沖縄	26.0 %	東京近郊	30.2 %	中部	28.4 %	沖縄	24.7 %
7位	中部	20.2 %	中部	20.4 %	中部	19.8 %	沖縄	20.9 %	中部	23.1 %
8位	東北	16.0 %	東北	16.2 %	中国	14.6 %	中国	17.4 %	東北	22.2 %
9位	中国	14.8 %	四国	14.3 %	北陸	11.5 %	四国	17.0 %	北陸	17.8 %
10位	四国	14.8 %	中国	13.8 %	東北	9.4 %	北陸	16.3 %	四国	14.4 %
11位	北陸	14.1 %	北陸	13.8 %	新潟	9.4 %	東北	16.0 %	中国	11.9 %
12位	新潟	11.3 %	新潟	10.9 %	四国	6.3 %	新潟	12.4 %	新潟	10.9 %

順位	アジア居住者									
	香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア	
1位	東京	39.3 %	東京	53.0 %	北海道	59.6 %	北海道	57.3 %	東京	51.6 %
2位	関西	37.7 %	北海道	52.6 %	東京	49.0 %	関西	39.0 %	東京近郊	44.0 %
3位	北海道	37.1 %	関西	33.5 %	関西	36.4 %	東京	37.8 %	北海道	40.7 %
4位	九州	31.4 %	沖縄	32.2 %	沖縄	31.1 %	沖縄	30.5 %	関西	38.5 %
5位	東京近郊	23.9 %	東京近郊	30.4 %	東京近郊	27.8 %	東京近郊	23.2 %	沖縄	29.7 %
6位	中部	21.4 %	九州	27.4 %	九州	19.9 %	九州	23.2 %	九州	24.2 %
7位	沖縄	21.1 %	東北	16.5 %	中部	15.2 %	中部	19.5 %	中部	22.0 %
8位	東北	15.4 %	四国	14.3 %	中国	13.2 %	中国	14.6 %	四国	22.0 %
9位	四国	15.1 %	新潟	12.2 %	東北	12.6 %	新潟	13.4 %	中国	16.5 %
10位	北陸	13.5 %	中国	11.7 %	四国	11.3 %	東北	9.8 %	東北	16.5 %
11位	中国	13.2 %	北陸	10.4 %	北陸	10.6 %	北陸	8.5 %	北陸	14.3 %
12位	新潟	9.7 %	中部	8.7 %	新潟	8.6 %	四国	7.3 %	新潟	9.9 %

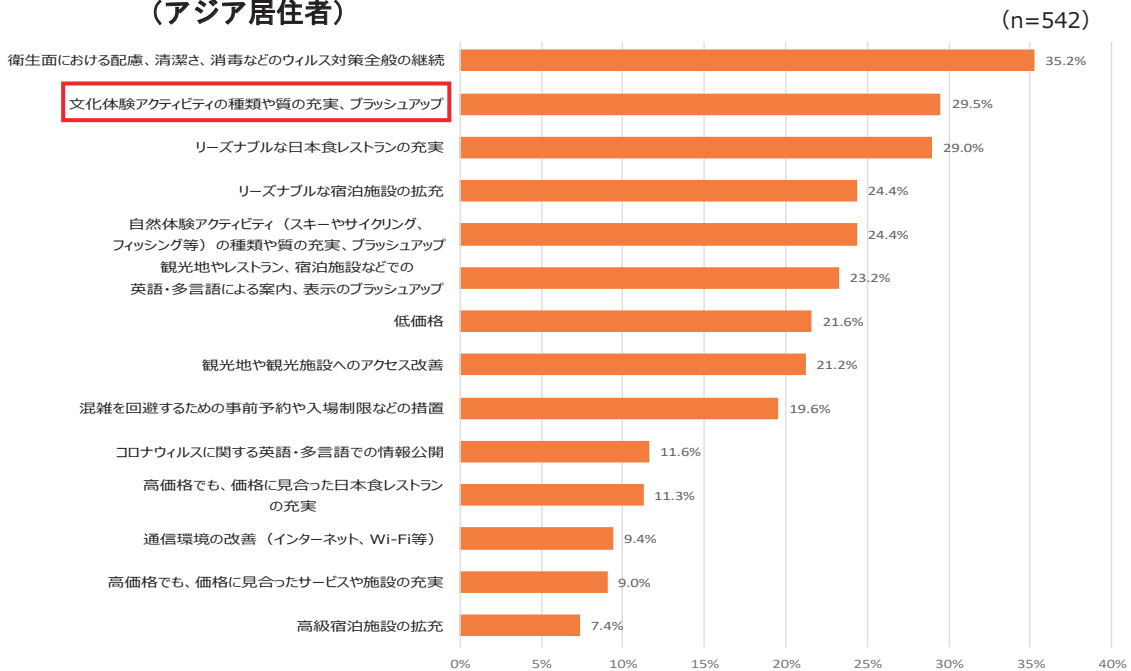
順位	欧米豪居住者 (n=184)									
			アメリカ		オーストラリア		イギリス		フランス	
1位	東京	54.3 %	東京	61.1 %	東京	56.8 %	東京	58.1 %	東京	43.6 %
2位	関西	31.5 %	東京近郊	27.8 %	北海道	54.5 %	関西	45.2 %	沖縄	27.3 %
3位	北海道	31.0 %	関西	24.1 %	関西	43.2 %	東京近郊	25.8 %	九州	25.5 %
4位	東京近郊	28.3 %	北海道	24.1 %	東京近郊	36.4 %	北海道	22.6 %	東京近郊	23.6 %
5位	中国	23.4 %	四国	22.2 %	中国	36.4 %	中国	22.6 %	北海道	23.6 %
6位	沖縄	21.7 %	中部	22.2 %	中部	25.0 %	沖縄	19.4 %	関西	21.8 %
7位	九州	21.7 %	沖縄	20.4 %	九州	25.0 %	東北	19.4 %	中国	21.8 %
8位	四国	19.0 %	九州	20.4 %	沖縄	18.2 %	新潟	16.1 %	四国	21.8 %
9位	中部	18.5 %	北陸	18.5 %	北陸	18.2 %	九州	12.9 %	北陸	18.2 %
10位	北陸	16.3 %	新潟	18.5 %	四国	15.9 %	中部	12.9 %	中部	12.7 %
11位	新潟	15.2 %	中国	14.8 %	新潟	15.9 %	四国	12.9 %	新潟	10.9 %
12位	東北	14.1 %	東北	14.8 %	東北	15.9 %	北陸	6.5 %	東北	9.1 %

2. 沖縄訪問希望者の特徴・ニーズ

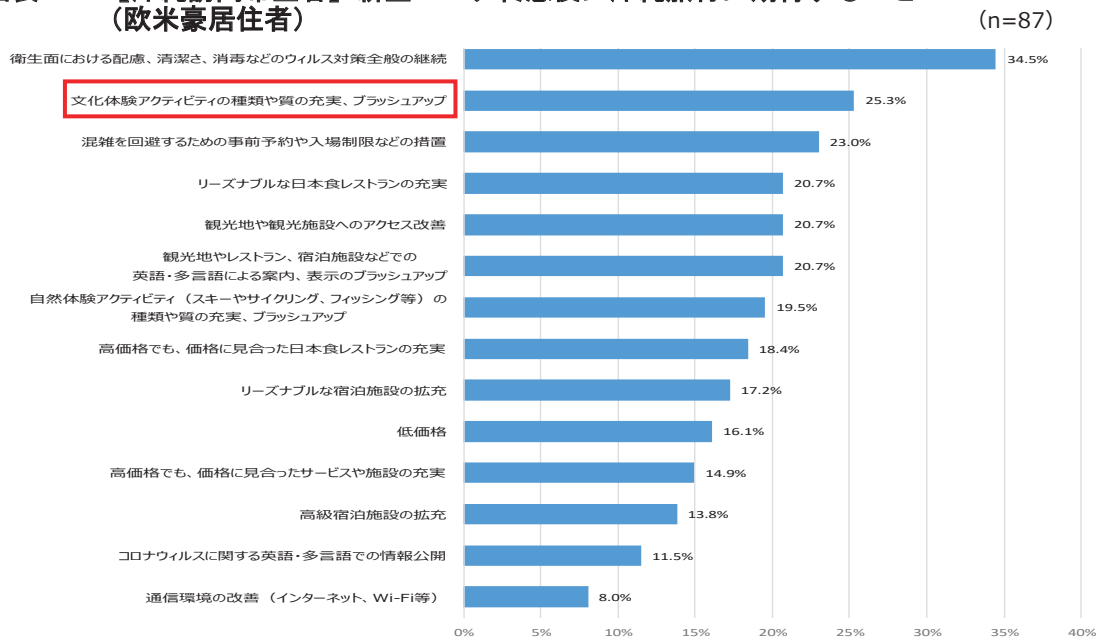
(1) 新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること

沖縄訪問希望者が、新型コロナの流行終息後に沖縄旅行へ期待することは、アジア・欧米豪いずれにおいても「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウィルス対策全般の継続」がトップで、「文化体験アクティビティの種類や質の充実、ブラッシュアップ」が続いた。本レポート第一部「コロナ禍における日本人旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項に関する調査」では、沖縄旅行意向者の今後行ってみたい旅行のタイプは「海浜リゾート」が最も多く挙がっていたが、海外からみた場合には沖縄はあくまでも「日本」であり、「文化」への期待も高いことが窺える。

図表 13 【沖縄訪問希望者】新型コロナ終息後に沖縄旅行に期待すること
(アジア居住者)



図表 14 【沖縄訪問希望者】新型コロナ終息後に沖縄旅行に期待すること
(欧米豪居住者)



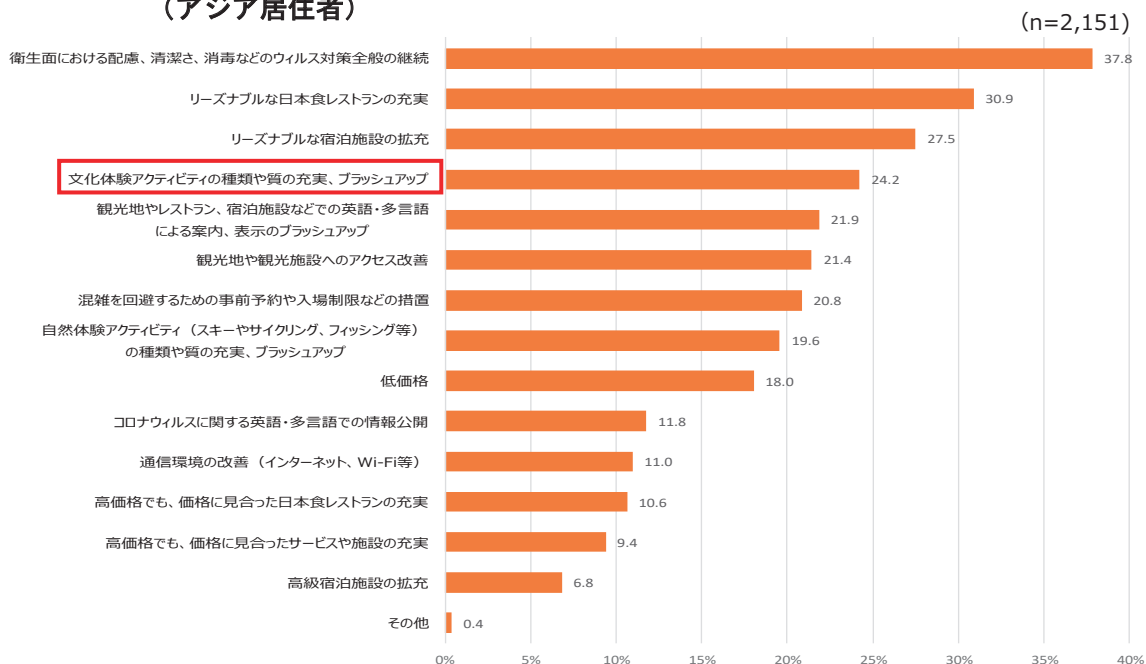
また、沖縄訪問希望者の国別の回答をみると、韓国以外の国については「ウィルス対策全般の継続」が上位となっているほか、「混雑回避の措置」も挙がっており、安全・安心への取組、3密回避の取組が求められる。また中国、韓国で「自然アクティビティ」も上位に位置しているが、全般的には「文化体験アクティビティ」が上位に挙がった。このほか、韓国、アメリカの1位、イギリスの2位には「観光地へのアクセス改善」が挙がっている。新型コロナ終息後は、感染リスクを考慮して近い人との少人数旅行化が加速していくことが推察されることから、利便性の高い周遊型の公共交通の環境整備は不可欠であろう。

図表 15 【沖縄訪問希望者】新型コロナ終息後に沖縄旅行に期待すること（国別）

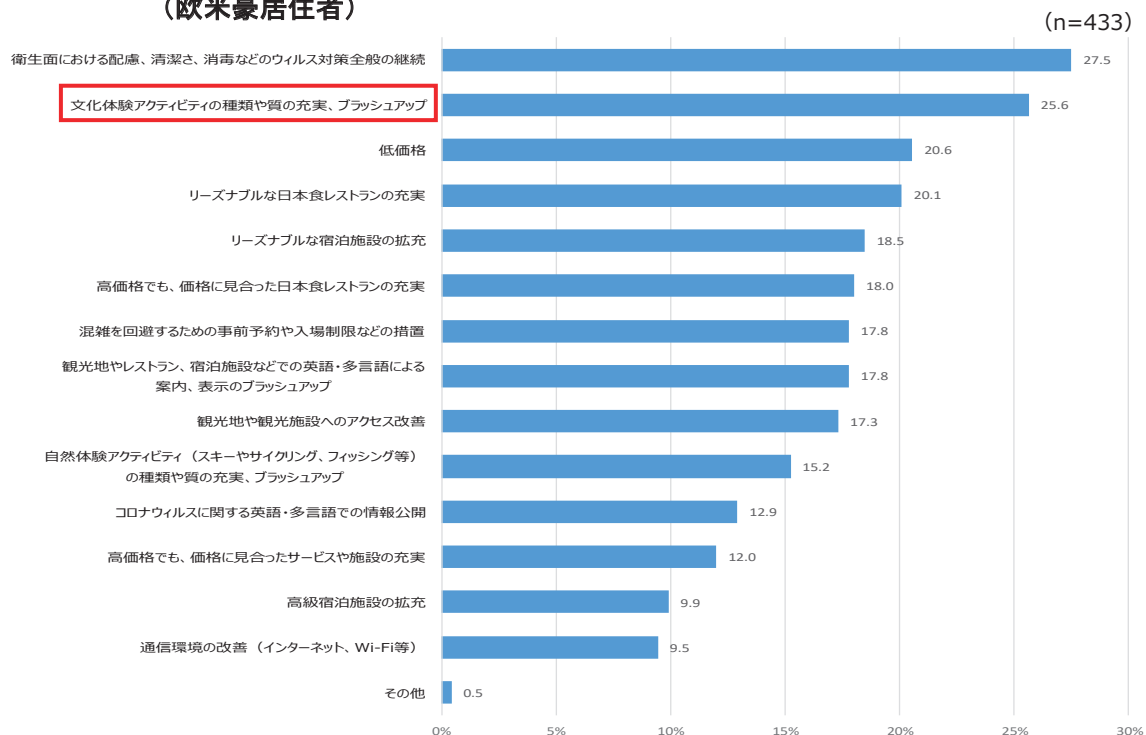
	1位	2位	3位	4位	5位	6位
アジア	韓国 (n=36)	観光地へのアクセス改善 27.8%	自然体験アクティビティ 27.8%	リーズナブルな宿泊施設 25.0%	文化体験アクティビティ 22.2%	リーズナブルな日本食レストラン 22.2%
	中国 (n=62)	自然体験アクティビティ 37.1%	文化体験アクティビティ 32.3%	ウィルス対策全般 29.0%	英語・多言語案内 24.2%	混雑回避の措置 24.2%
	台湾 (n=92)	ウィルス対策全般 43.5%	リーズナブルな日本食レストラン 41.3%	文化体験アクティビティ 37.0%	自然体験アクティビティ 30.4%	観光地へのアクセス改善 21.7%
	香港 (n=78)	リーズナブルな日本食レストラン 39.7%	ウィルス対策全般 38.5%	文化体験アクティビティ 29.5%	自然体験アクティビティ 28.2%	英語・多言語案内 25.6%
	タイ (n=88)	ウィルス対策全般 35.2%	文化体験アクティビティ 27.3%	混雑回避の措置 27.3%	ウィルスに関する多言語での情報公開 27.3%	観光地へのアクセス改善 23.9%
	シンガポール (n=74)	低価格 39.2%	リーズナブルな宿泊施設 33.8%	ウィルス対策全般 29.7%	英語・多言語案内 25.7%	文化体験アクティビティ 25.7%
	マレーシア (n=53)	ウィルス対策全般 34.0%	低価格 28.3%	文化体験アクティビティ 28.3%	リーズナブルな日本食レストランの充実 28.3%	観光地へのアクセス改善 26.4%
	インドネシア (n=59)	ウィルス対策全般 44.1%	英語・多言語案内 30.5%	文化体験アクティビティ 28.8%	低価格 27.1%	リーズナブルな日本食レストラン 22.0%
欧米豪	アメリカ (n=14)	観光地へのアクセス改善 35.7%	リーズナブルな日本食レストラン 35.7%	ウィルス対策全般 35.7%	リーズナブルな宿泊施設の拡充 28.6%	通信環境の改善（インターネット、Wi-Fi等） 21.4%
	オーストラリア (n=25)	ウィルス対策全般 40.0%	文化体験アクティビティ 36.0%	混雑回避の措置 32.0%	高価格でも価格に見合ったサービス 24.0%	英語・多言語案内 20.0%
	イギリス (n=22)	低価格 36.4%	観光地へのアクセス改善 27.3%	自然体験アクティビティ 27.3%	文化体験アクティビティ 27.3%	高価格でも、価格に見合った日本食 27.3%
	フランス (n=26)	英語・多言語案内 38.5%	ウィルス対策全般 34.6%	自然体験アクティビティ 23.1%	混雑回避の措置 23.1%	リーズナブルな宿泊施設 19.2%

なお、参考に「訪日希望者が訪日旅行に期待すること」をみると、アジア・欧米豪ともに「ウイルス対策」への期待が最も高いが、「リーズナブルな日本食レストランの充実」「リーズナブルな宿泊施設の拡充」「低価格」も上位に位置している。なお、「リーズナブルな日本食」は、「安い店」という意味だけではなく「自国で日本食を食べるよりも、現地で安く食べられる」という期待も込められていると史料される。また、低価格についても、遠距離となる欧米豪居住者は、訪日のための交通費も高額になることから、価格への訴求が現れているものと史料される。

図表 16 (参考)【訪日希望者】新型コロナ終息後に訪日旅行に期待すること
(アジア居住者)

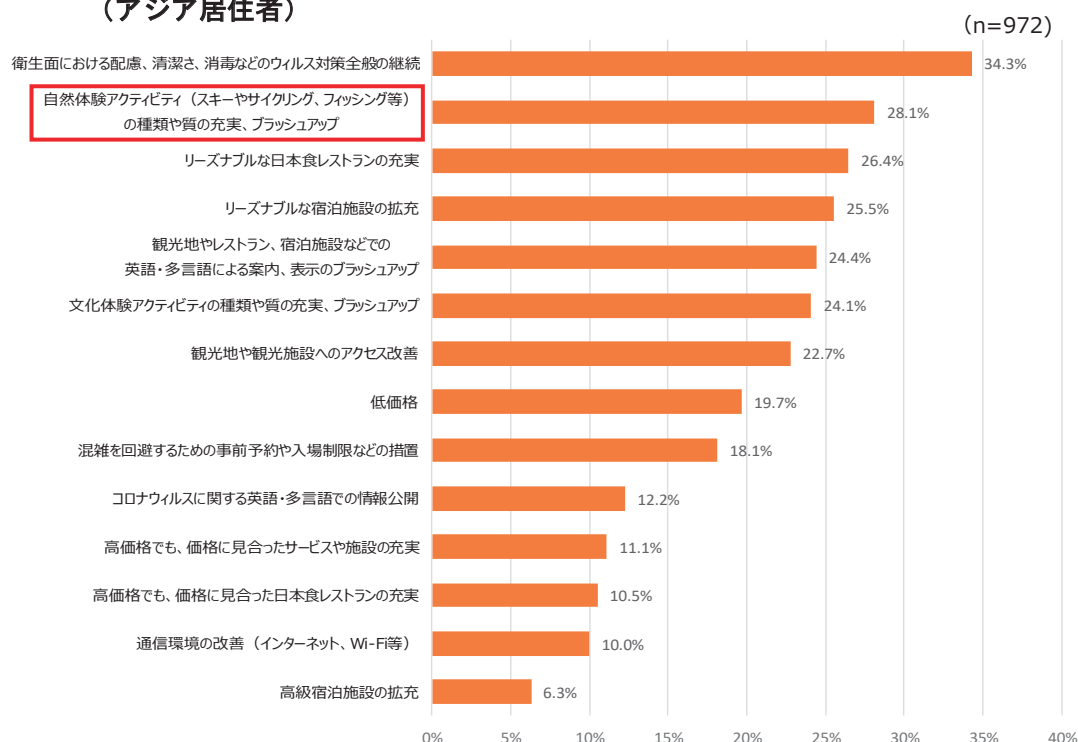


図表 17 (参考)【訪日希望者】新型コロナ終息後に訪日旅行に期待すること
(欧米豪居住者)

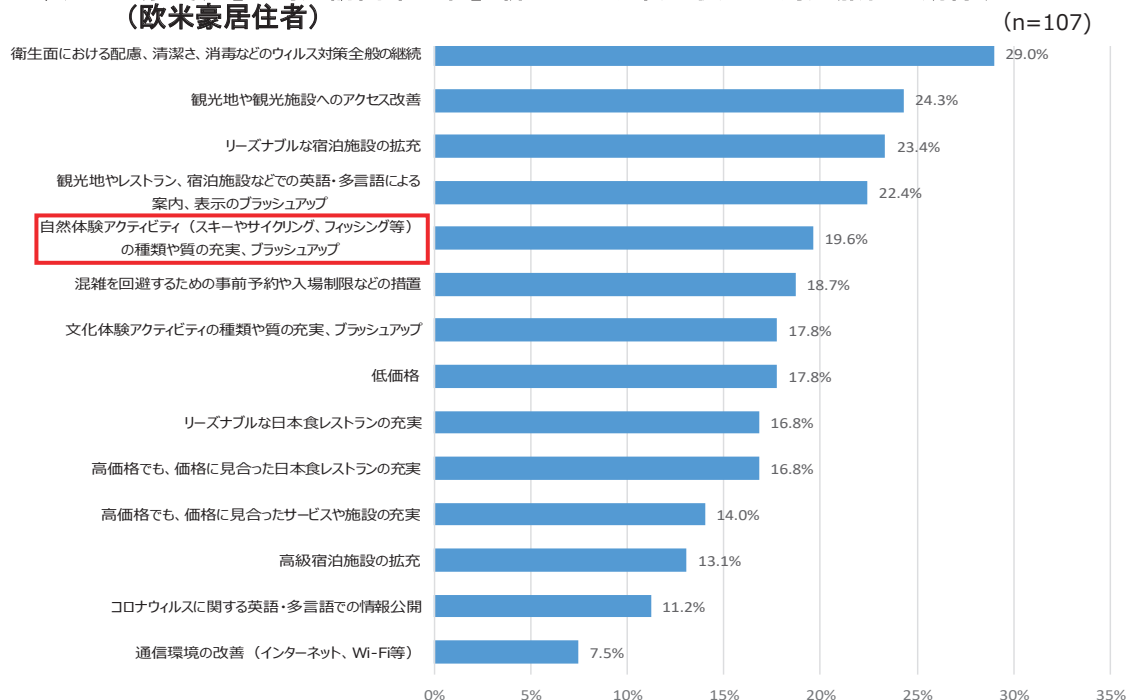


また、同じく参考に「北海道訪問希望者が北海道旅行に期待すること」をみると、沖縄旅行希望者や訪日希望者と比べて「自然体験アクティビティの種類や質の充実、ブラッシュアップ」が上位となっており、特にアジア居住者では2位となった。図表10～12でもアジア居住者の行きたい地域として北海道は上位に挙がっており、北海道の知名度の高さと自然への憧れ・期待が高いことが窺える。

図表18 (参考)【北海道訪問希望者】新型コロナ終息後に北海道旅行に期待すること (アジア居住者)



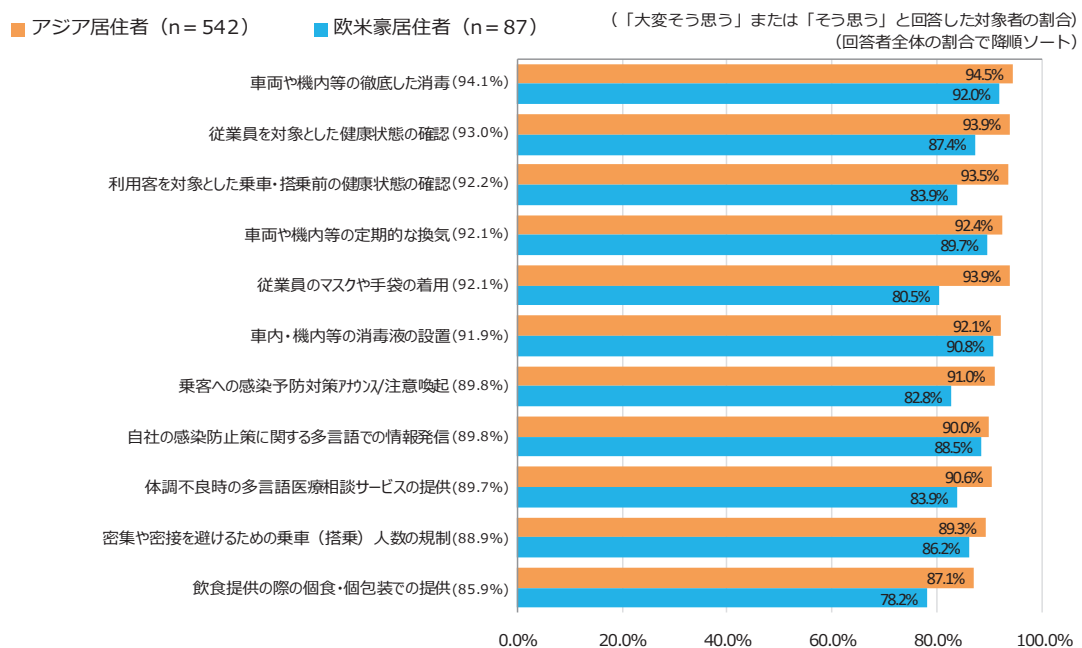
図表19 (参考)【北海道訪問希望者】新型コロナ終息後に北海道旅行に期待すること (欧米豪居住者)



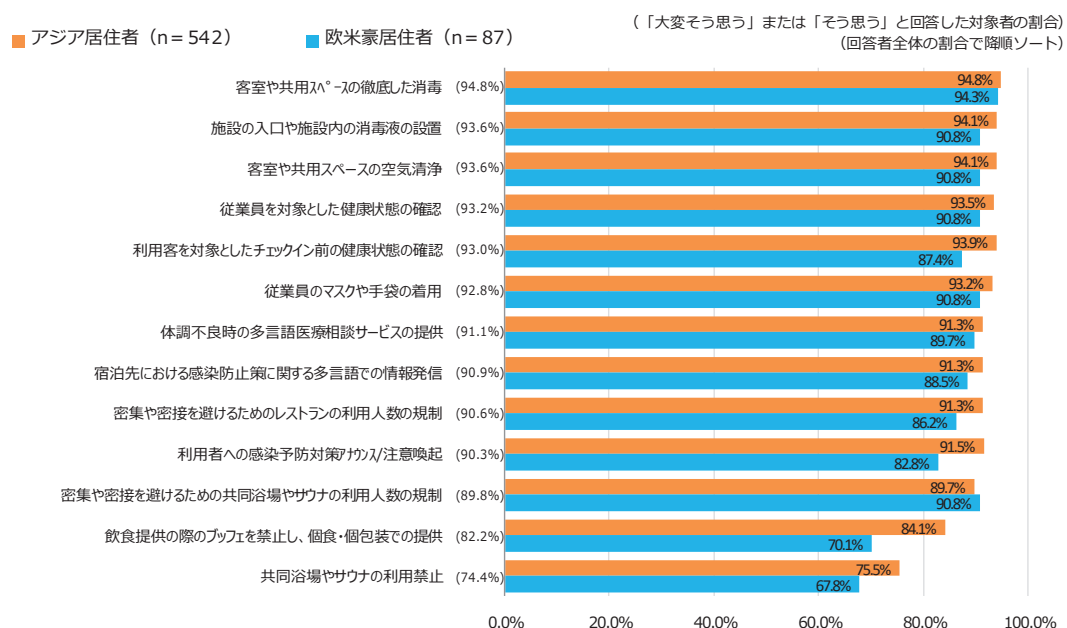
(2) 交通事業者・宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策

交通事業者及び宿泊事業者が取るべき新型コロナ対策については、全般的に選択率が高く「大変そう思う」「そう思う」の回答が、アジアでは大半の項目で 9 割程度、欧米豪でも 8 割程度となっている。利用する観光客だけではなく、従業員の健康状態の確認や従業員のマスク・手袋の着用など従業員の対策への期待も高いほか、感染防止策の多言語での情報発信、体調不良時の多言語医療サービス提供へのニーズも高い。このほか、密集を避けるための人数規制や飲食提供の際の「個食・個包装での提供」についても、今後「密や接触を避ける取組」として対策が求められよう。

図表 20 【沖縄訪問希望者】交通事業者がとるべき新型コロナ対策



図表 21 【沖縄訪問希望者】宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策



第4章 受入側の沖縄が取り組むべき事項

本章では、前章の結果を踏まえ、受入側の沖縄が取り組むべき事項を7つの視点としてとりまとめた。

調査結果	求められる取組の視点
・新型コロナ終息後の海外観光旅行先としての日本人気は引き続き高い。(p.41【新型コロナの流行終息後に観光旅行したい国・地域】) ・訪日未経験者は、まず「東京」に行きたい。次いで「関西」「北海道」「九州」そして「沖縄」である。また、訪日未経験者より訪日経験者の方が沖縄含め地方への意向が高い。(p.44～46【新型コロナ終息後に訪問したい日本の地域】)	① (訪日経験者／未経験者、国・地域別、年代別など) ターゲット層毎の適切な需要の維持・喚起、日本政府観光局(JNTO)や国内他地域と連携したプロモーション (p.53)
・日本はもともと「清潔だから」「治安が良いから」行きたい。(p.42【新型コロナ終息後に観光のために日本を訪問したい理由】) ・新型コロナ終息後の沖縄旅行に期待することの最上位は「ウイルス対策全般」。(p.47【新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること】)	② 日本国内及び沖縄滞在中の安全・安心の確保と周知 (p.54)
・「新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること」の上位に「文化体験アクティビティの種類や質の充実、ブラッシュアップ」。 ・中国、韓国からは「自然体験アクティビティ」への期待も高い。(p.47,48【新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること】)	③ 質の高い観光コンテンツ、沖縄文化体験アクティビティのブラッシュアップ (p.54)
・「新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること」の韓国・アメリカの1位、イギリスの2位は「観光地へのアクセス改善」。各地を巡る滞在型観光が増えていくことを考えると、利便性の高い公共交通等の環境整備は不可欠。(p.48【新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること】)	④ 二次交通の環境整備 (p.56) (例：MaaSの導入。基幹となるバス路線を軸に、各自治体でオンデマンドバスやシェアサイクルなどを効率的かつ利用しやすい形で提供することで、路線バスの維持と観光地への足の確保を行う等。)
・日本を訪問したい理由として「高度な医療体制が整備されているから」の割合は低い。(p.42【新型コロナ終息後に観光のために日本を訪問したい理由】) ・交通事業者・宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策として「体調不良時の多言語医療相談サービスの提供」等が挙げられている。(p.51【交通事業者・宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策】)	⑤ 外国人にも対応できる医療体制の整備 (p.57)
・「新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること」「交通事業者・宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策」として「感染防止策の多言語での情報発信」が挙げた。 ・「体調不良時の多言語医療サービスの提供」、「飲食提供の際の個食・個包装での提供」も求められている。(p.47【新型コロナ終息後に沖縄旅行へ期待すること】、p.51【交通事業者・宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策】)	⑥ 外国人ニーズへの準備・対応 (p.59)
・上記結果を踏まえると、今から訪日外国人旅行者の受入に向けて準備が必要だが、受入再開が当面見通せないことから、日本国内に生活・滞在している在留外国人や、沖縄県内に生活・滞在する外国人の観光受入も一策である。 【在留外国人の国内観光意向について、他機関の調査結果を参照した】	⑦ 在留外国人や在沖外国人の観光受入による、①～⑥の取組の実践・ブラッシュアップ (p.61)

①訪日経験者／未経験者、国・地域別、年代別など、ターゲット層毎の適切な需要の維持・喚起、
日本政府観光局（JNTO）や国内他地域と連携したプロモーション

2021 年も新型コロナは世界的な流行が続いており、海外渡航の再開は見通せない状況であるが、コロナ禍においてもインバウンドの訪日需要は依然として高い。このため、訪日・訪沖需要の維持・喚起のために情報発信しつづけることは欠かせない。一方で旅行需要の回復は、近距離→遠距離、リピーター→ビギナー、FIT（個人旅行者；Foreign Independent Tour）→団体の順に回復するであろうことから、ターゲット地域やターゲット層に向けて異なるプロモーションが必要である。世界中の観光地がコロナ終息後の旅行再開に向けてプロモーション活動を行っていることや、訪日未経験者からすれば沖縄はゴールデンルート(東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪等の主要観光地を巡る人気ルート)や北海道の次に行きたい地域、ともすれば知らない地域であることを考えると、日本の地方都市のひとつである沖縄から情報発信しても、沖縄ファンでなければ直接伝わることは難しい。このため、日本政府観光局（JNTO）と連携し、訪日未経験者や沖縄を知らない層への認知・周知活動や、訪日経験者・訪沖経験者やリピーター層へのアプローチ等、ターゲット層毎へのプロモーションを行うことが有効と考える。

（参考事例）JNTO シンガポール事務所と沖縄県シンガポール事務所の連携による
フェイスブックライブ配信 - 沖縄への興味・関心を維持するための仕組み作り -

JNTO は、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、インド、オーストラリアの 6 カ国にある海外事務所の公式フェイスブックのフォロワーを対象に、シンガポールに拠点を置く日本の自治体の事務所などと連携し、日本の観光地の様子をライブ配信で伝える企画「Fun From Home」を 2020 年 10 月から開始した。

第 1 回は静岡県東南アジア駐在員事務所のフェイスブック上で動画を配信、第 2 回は沖縄県シンガポール事務所と共同し、2020 年 11 月 8 日に（一財）沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）と JNTO 海外事務所のフェイスブックで、那覇市内で島唄ライブを開催する飲食店と中継を結び、島唄の生ライブや沖縄に関するトーク、クイズ企画などを生配信した。

第 2 回の動画再生回数は 2 万回超、320 件のコメントが寄せられ、「沖縄が恋しい！沖縄はとっても美しい島！コロナで行けなくなっただけ早く行きたい！」などという声も挙がった。

出典：（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
「観光人材育成オンラインセミナー」
沖縄県シンガポール事務所提供資料
<https://www.facebook.com/visitokinawajapan/videos/2507877489510689/>



②日本国内及び沖縄滞在中の安全・安心の確保と周知

コロナ禍及び新型コロナ終息後は、地域全体としての衛生管理に対する取組、すなわち安全・安心の確保が、旅行先を選定する必要条件となろう。国内旅行客の受入においては、沖縄として取り組む目線で良いだろうが、海外からの旅行客受入にあたっては、「日本国内どこでも安全・安心で過ごせる」ということを、海外に向け多言語でタイムリーに発信する必要がある。また、単に安全・安心への取組を伝えるだけではなく、併せて「歓迎の意思を伝える」ことも、「行きたい国・地域」として選ばれる要素になろう。

（※）安全・安心の確保・周知に関する国内外の認証制度の事例は、本レポート 第一部「コロナ禍における日本人旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項」に関する調査報告 23,24 ページ参照

③質の高い観光コンテンツ、沖縄文化体験アクティビティのブラッシュアップ

新型コロナ終息後の訪日旅行は、3密を避ける行動が意識され、あちこち巡る観光からじっくり滞在する観光へのシフトがより促進されると推察される。また、今回の調査結果によると、沖縄訪問希望者においてアジア居住者・欧米豪居住者ともに「文化体験アクティビティの種類や質の充実、ブラッシュアップ」への期待が上位に位置し、加えて訪日旅行全般に比べて「自然体験アクティビティの種類や質の種類、ブラッシュアップ」への期待も高い。本調査結果からは「沖縄固有の文化」の認知度を測ることはできないが、日本の他地域とは異なる「沖縄ならではの」「体験型観光コンテンツ」のブラッシュアップは沖縄観光の「質」の向上へも繋がると期待される。

（参考事例）「那覇まちま〜い」がコロナ終息を見据えて英語案内ガイドを養成

那覇市観光協会と OTS サービス経営研究所は、地元ガイドが那覇の魅力や歴史、文化等を紹介する「那覇まちま〜い」の英語案内ガイドの養成に取組み、約 3 カ月間の講座や実地研修を経て、2021 年 3 月に 29 人のガイドが認定された。

ガイドが案内するコースは「首里城」「壺屋」「市場」の 3 コースで、基本的には従来の「那覇まちま〜い」のガイド養成時に使用するシナリオを翻訳して使用しているが、首里城コースでは、通常の案内ルートを変更したり、外国人向けにぶくぶく茶や泡盛、沖縄料理といった「食」のコンテンツも追加した。沖縄科学技術大学院大学（OIST）の研究者らを招いたモニターツアーでも、ガイド満足度 97%と高評価を得た。

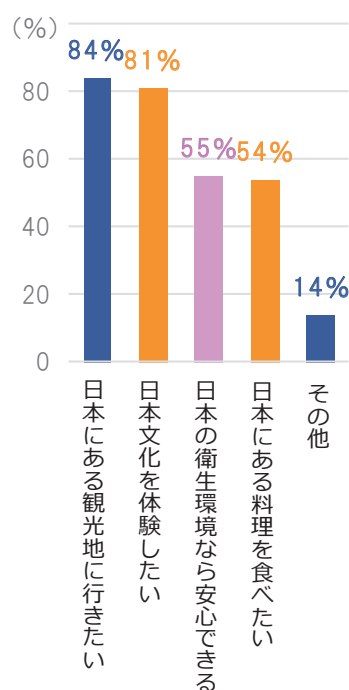


出典：（一社）那覇市観光協会

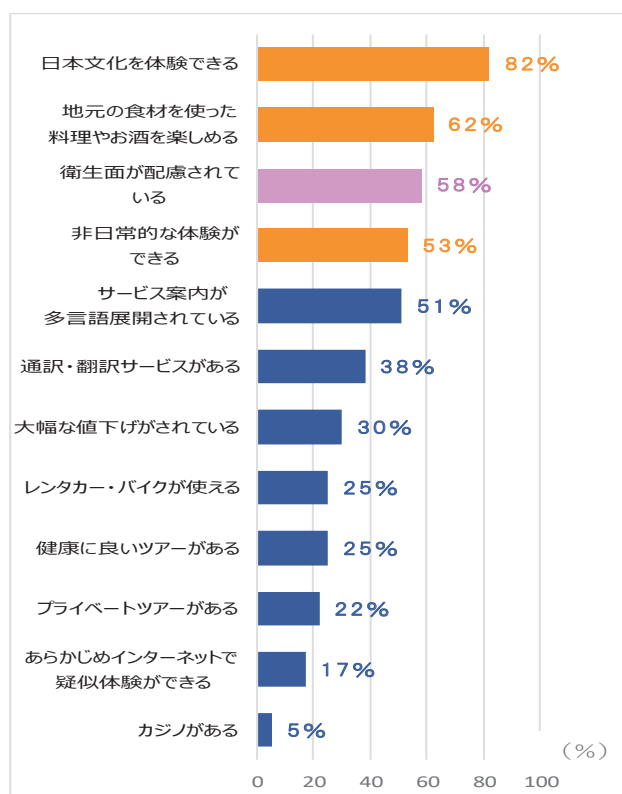
（参考：他機関調査）在留外国人が考える新型コロナ終息後に再び外国人が日本へ訪れる理由（株式会社 YOLO JAPAN 調査）

在留・在日外国人向け求人情報の発信をはじめ、暮らしに関するさまざまなサービスを提供する株式会社 YOLO JAPAN が、在留外国人会員向けに実施した「新型コロナウイルス終息後の観光に関するアンケート調査」では、「新型コロナ終息後再び外国人が日本へ訪れる理由」として、「日本文化を体験したいから」「日本の衛生環境なら安心できる」「日本にある料理を食べたいから」が 50%を超え、本調査の「海外に在住する外国人の希望」と本調査における「日本に住む外国人から見た外国人が日本を訪れたい理由」は同様の結果となった。また、「在留外国人が考える訪日外国人を誘致する方法」についても、「日本文化を体験できること」「地元の食材を使った料理やお酒を楽しめること」「非日常的な体験ができること」等、ご当地ならではの体験への期待が寄せられ、加えて「衛生面が配慮されていること」も上位に挙がった。

・在留外国人が考える、コロナ終息後に再び外国人が日本へ訪れる理由
(n = 353)



・在留外国人が考える、コロナ終息後に再び外国人が日本へ訪れる理由（在留外国人が考える訪日外国人を誘致する方法）
(n = 353)



出典：株式会社 YOLO JAPAN 「在留外国人会員向け新型コロナウイルス終息後の観光に関するアンケート調査」

アンケート実施期間：2020 年 4 月 27 日～5 月 11 日、回答者：63 カ国 372 名の YOLO JAPAN 会員

※ 株式会社 YOLO JAPAN は、在留・在日外国人向け求人情報の発信をはじめ、暮らしに関するさまざまなサービスを提供しており、世界 226 の国や地域出身の在留外国人 16 万人超が会員登録している。

④二次交通の環境整備

訪日外国人観光客の沖縄県内での移動手段は、これまでモノレール、団体向け貸切バス、レンタカー、タクシーが多かったが、今後個人旅行者（FIT）がさらに増加し、主要観光地を巡る観光から各地を巡る滞在型観光が増えていくことを考えると、利便性の高い公共交通等の環境整備は不可欠である。沖縄の公共交通の柱は路線バスだが、県民は自動車利用が多く、バス利用者が減少の一途にあることや、人手不足の深刻化（運転手の高齢化や採用難、貸切バス事業者からの引抜き等）により路線の廃止や便数が減少する等、住民及び観光客双方の利便性が低下している。加えて外国人対応となると、多言語対応や決済手段の対応（カードや電子マネー）等の課題が増す。

このような課題に対し、沖縄県内では今後 MaaS(Mobility as a Service (※))の導入が必要と考える。MaaS はスマートフォンアプリを通じて、ルート検索や混雑状況、予約・決済機能を一括で管理し、最適かつリーズナブルなモビリティサービスの組み合わせを提供できることから、「密を避ける」「非接触型」等、コロナ終息後の観光行動に適したサービスとも言えよう。沖縄県内でも八重山地域（石垣市及び竹富町）や宮古島市、南城市、さらには県全域を対象とした MaaS の実証実験が行われたが、今後、住民、日本人観光客に留まらず、訪日外国人にも対応できる MaaS の実用化に期待したい。

（※様々な交通手段（鉄道、バス、タクシー、飛行機、フェリー、自転車など）を一つのサービスに統合して提供するビジネスの総称）。

（参考事例）訪日外国人向け観光型 MaaS「くるり奈良」実証実験

（株）電通国際情報サービス、（株）デンソー、ActiveScaler Inc.、奈良交通（株）及び（一社）運輸デジタルビジネス協議会は、訪日外国人向けの観光型 MaaS「くるり奈良」の実証実験を、2019 年 10 月～12 月に実施した。

「くるり奈良」は、訪日外国人を主な対象として、旅の出発地（シンガポール）から目的地（奈良）まで、飛行機、リムジンバス、奈良市内周遊バス、タクシーなどの交通網をスマートフォンで検索・予約・決済できるサービスで、奈良各所の SNS 映え映像を AI が自動配信する Web アプリ「くるり奈良 Web」と、気に入った場所への交通手段の検索、チケット予約・決済、目的地ナビゲーションなどの機能を提供するスマートフォン向けアプリ「IMRIDE（アイムライド）」を用いて、シンガポールから奈良への誘客・移動・周遊をシームレスに連携させた。

なお、新型コロナウイルスによる影響のため本実証実験は終了したが、本協議会では引き続きワーキンググループによる MaaS に関する研究を継続している。

出典：（一社）運輸デジタルビジネス協議会ホームページ（<https://unyu.co/news/319/>）



⑤外国人にも対応できる医療体制の整備

本調査においても、「体調不良時の多言語医療相談サービスの提供」への取組の期待が挙がっていたが、日本そして沖縄が旅行先として選ばれるためには、外国人にも対応できる安全・安心な医療体制があることも重要となる。これまでも、沖縄県内の医療機関は訪日外国人観光客の旅行中の病気や怪我等に対応してきたが、今後は新型コロナ等、感染症発症時の対応にも備える必要がある。沖縄県は島嶼県かつ周辺離島を多く抱え、医療体制が脆弱である等課題は多いものの、新型コロナ終息後に旅行需要が回復することを見越して、官民一体となった医療体制の整備は不可欠である。また体制を整え、「受け入れる準備ができていること」を発信することで、沖縄が旅先として「選ばれる」ことにも繋がる。

（参考：他機関調査）新型コロナ収束後に旅行者が目的地を決める基準とは（トリップアドバイザー調査）

世界最大の旅行プラットフォームであるトリップアドバイザーが実施した、6 カ国（日本、アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、シンガポール）の旅行者意識調査において、「旅行先を決める上で今後重要になること」として、「最新設備のある病院へ安全かつ容易にアクセスできること」を選択した割合が、日本は 20%であるのに対し、日本以外の 5 カ国では 50%を超えていた。今後、旅行先を決める「旅マエ」段階において、医療体制も旅行先を決定する要因の一つになると思料される。

・旅行先を決める上で今後重要になることは？

	日本	アメリカ	イギリス	シンガポール	オーストラリア	イタリア
旅行中に人混みを避けることができる/避けられる場所があること	49%	52%	53%	64%	61%	44%
新型コロナウイルス感染者数（陽性者数または死亡者数）の低下	42%	35%	34%	45%	38%	26%
地域で個人の衛生管理および公衆衛生に大規模に取り組んでいること	40%	48%	47%	62%	51%	51%
夜間外出自粛、ソーシャルディスタンス、マスク着用などの政府の規制が行われていること	37%	17%	22%	23%	17%	14%
十分な対人距離をとる文化があること	30%	14%	17%	23%	15%	23%
公共交通機関の利用時間が短いこと	28%	17%	18%	24%	21%	9%
最新設備のある病院へ安全かつ容易にアクセスできること	20%	54%	52%	51%	50%	56%
非接触型決済が広く普及していること	13%	42%	51%	66%	47%	39%
短距離フライトで行けること	12%	30%	34%	37%	34%	18%
飛行機の欠航が少ないこと	8%	32%	38%	42%	33%	21%

出典：トリップアドバイザー「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する旅行者調査」

対象者：過去 12 ヶ月に 1 回以上旅行を経験した人、かつ旅行の意思決定者

（意思決定にほとんど関わらない人は除外）

対象国：日本、アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、シンガポール

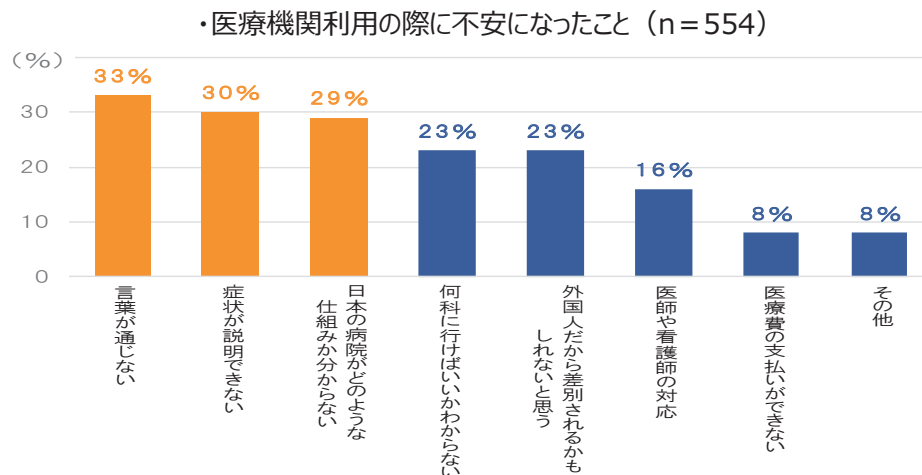
回答者数：各国約 400 人

調査期間：2020 年 4 月 22 日～28 日、2020 年 5 月 29 日～6 月 2 日、

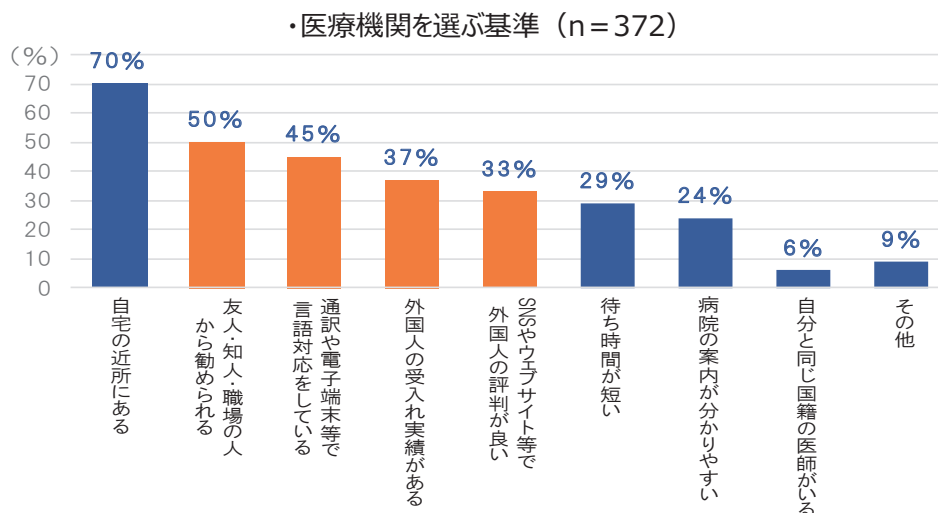
2020 年 6 月 10 日～15 日、2020 年 6 月 24～30 日

（参考：他機関調査）在留外国人から見た日本の医療機関（株式会社 YOLO JAPAN 調査）

株式会社 YOLO JAPAN が在留外国人会員向けに実施した「医療機関の対応に関するアンケート調査」では、「医療機関利用の際に不安になったこと」として、「言葉が通じない」「症状が説明できない」「日本の病院がどのような仕組みか分からない」が上位に挙がった。言葉の問題と日本の医療制度の周知に関する課題であり、訪日外国人旅行者にも共通する課題と考えられる。



また、在留外国人が「医療機関を選ぶ基準」としては、「自宅の近所にある」の回答が最も多く、次いで「友人・知人・職場の人から勧められる」「通訳や電子端末等で言語対応している」「外国人の受け入れ実績がある」等と続いた。「自宅の近所」は「利便性」に関するもので、トリップアドバイザーの調査における「病院に容易にアクセスできる」ことに類似する内容であろう。また言語対応や外国人への対応ができる施設が求められることも、訪日外国人旅行者への対応へと繋がる内容である。



出典：株式会社 YOLO JAPAN 「在留外国人から見た医療機関の対応に関するアンケート調査」
アンケート実施期間：2020年4月13日～5月13日、回答者：69カ国 554名のYOLO JAPAN 会員

⑥外国人ニーズへの準備・対応

現在、訪日外国人旅行者は受入停止状態だが、国内旅行者は、昨年の緊急事態宣言解除後、徐々に動いている。しかし、日本人旅行者と外国人旅行者では、旅行先でのニーズが異なることも多々ある。⑤の医療機関と同様、多言語対応や非接触型決済、飲食等における「個包装」、入場規制（事前予約制）等、外国人旅行者の受入再開までに準備しておく必要がある。

（参考：他機関調査）新型コロナ収束後に旅行者が体験・アクティビティ、宿泊施設、飲食施設等を決める上で重要視すること（トリップアドバイザー調査）

前述のトリップアドバイザーの6カ国調査では、宿泊施設や飲食施設、今後の体験・アクティビティを決める上で重要になることを聞いているが、この調査においても、日本と日本以外の5カ国で異なる傾向があり、「非接触型」へのニーズ（チェックイン／アウトや注文、決済、メニューは使い捨て又は消毒、調味料の個包装等）や、事前予約・チケット制といった「密を避ける」行動への期待が高いことが窺える。

・今後の体験やアクティビティで魅力を感じるものは？

	日本	アメリカ	イギリス	シンガポール	オーストラリア	イタリア
プライベートツアー（知っている人と行く少人数での）	92%	54%	42%	71%	55%	57%
プライベートツアー（知らない人と行く少人数での）	9%	30%	19%	25%	28%	22%
団体ツアー（知らない人と行く大人数での）	7%	17%	10%	12%	13%	11%
通常の営業時間中に一般入場できるチケット制のアクティビティ	16%	33%	27%	21%	29%	33%
通常の営業時間前に早期入場できるチケット制のアクティビティ	15%	30%	24%	30%	27%	24%
オーディオツアー（オーディオガイドを利用したプライベートツアー）	7%	19%	15%	19%	13%	14%
バーチャル体験（オンライン）	7%	19%	18%	21%	13%	12%

・体験やアクティビティを予約する際に重要視するものは？

	日本	アメリカ	イギリス	シンガポール	オーストラリア	イタリア
触れることが多い器具の消毒頻度の増加	53%	51%	52%	62%	59%	51%
スタッフが個人用保護具（手袋、マスクなど）を着用	51%	56%	43%	62%	34%	57%
従業員および旅行者の体温と症状のチェック	47%	46%	40%	64%	50%	42%
各旅行者に手指消毒剤を提供	41%	53%	54%	57%	63%	58%
政府の安全性基準を遵守していることを公開	40%	37%	43%	46%	48%	26%
必要な個人用保護具（手袋、マスクなど）を配布	38%	39%	35%	53%	34%	49%
各旅行者に除菌シートを提供	36%	52%	50%	55%	58%	44%
病気の時には出勤しないことを奨励する運営者ポリシー	36%	36%	36%	43%	40%	30%
清掃および衛生管理手順の公開	36%	45%	46%	51%	55%	40%
緊急対応手順（救急医療処置、接触者追跡通知など）	32%	28%	33%	50%	39%	32%
非接触式でのチケット払い戻し	24%	35%	40%	45%	39%	28%
独立系専門家による清潔度/衛生度の認定	20%	55%	46%	59%	62%	44%

出典：トリップアドバイザー「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する旅行者調査」

・宿泊施設を決める上で今後重要になることは？

	日本	アメリカ	イギリス	シンガポール	オーストラリア	イタリア
ゲストおよびスタッフ用手指消毒剤が用意されている	52%	70%	71%	66%	70%	67%
スタッフは定期的に手洗いをすることを義務付けられている	49%	57%	64%	59%	65%	43%
共用エリアではスタッフはマスクの着用が義務付けられている	49%	58%	47%	68%	27%	58%
共用エリアではゲストはマスクの着用が義務付けられている	47%	55%	42%	68%	24%	58%
スタッフの体温チェックを定期的に行っている	47%	48%	47%	60%	49%	42%
シーツなどのリネン類はすべて高温洗浄で殺菌されている	46%	56%	64%	56%	61%	68%
通行の多いエリアを定期的に消毒する	43%	61%	62%	64%	64%	38%
ダイニングテーブルと待合エリアのソーシャルディスタンスを確保する	34%	60%	63%	68%	60%	60%
アメニティが個別包装されている	33%	47%	48%	51%	45%	47%
床にソーシャルディスタンスの間隔を示すマークが付けられている	30%	41%	53%	51%	40%	31%
非接触型のチェックインが可能である	28%	46%	52%	52%	49%	23%
症状のあるスタッフに有給での自宅待機ポリシーがある	27%	37%	40%	39%	37%	45%
非接触型のチェックアウトが可能である	27%	45%	50%	51%	46%	20%
非接触型決済が可能である	26%	42%	55%	51%	47%	27%
客室を次のゲストのチェックインまで最低 24時間以上空室とする	24%	42%	42%	46%	34%	23%
ゲストおよびスタッフ用に除菌シートが用意されている	23%	40%	43%	43%	48%	31%
医師が毎日 24時間待機している	12%	27%	31%	47%	31%	27%

・飲食施設を決める上で今後重要になることは？

	日本	アメリカ	イギリス	シンガポール	オーストラリア	イタリア
ゲストごとにテーブルを消毒している	58%	58%	69%	63%	65%	62%
スタッフは定期的に手洗いをすることを義務付けられている	50%	60%	62%	63%	63%	43%
ゲストおよびスタッフ用手指消毒剤が用意されている	49%	63%	66%	67%	68%	65%
共用エリアではスタッフはマスクの着用が義務付けられている	47%	60%	42%	65%	27%	48%
ダイニングテーブル間のソーシャルディスタンスが確保されている	45%	60%	63%	68%	66%	62%
スタッフの体温チェックを定期的に行っている	42%	44%	44%	53%	48%	35%
通行の多いエリアを定期的に消毒する	40%	58%	58%	62%	64%	37%
共用エリアではゲストはマスクの着用が義務付けられている	40%	49%	32%	61%	24%	44%
メニューは使い捨てまたは消毒されている	34%	52%	54%	49%	51%	39%
床にソーシャルディスタンスの間隔を示すマークが付けられている	27%	40%	47%	53%	45%	28%
座席数の減少	27%	36%	42%	42%	41%	24%
非接触型注文が可能である	27%	37%	46%	49%	37%	19%
店外/店頭での受け取りが可能である	27%	41%	25%	29%	22%	11%
症状のあるスタッフに有給での自宅待機ポリシーがある	26%	35%	47%	41%	41%	45%
調味料は1回分/個別に包装されている	26%	50%	46%	48%	44%	33%
非接触型決済が可能である	25%	42%	59%	50%	47%	26%
利用は予約/事前の電話確認がある場合のみ可能	22%	30%	37%	38%	39%	36%
屋外席	14%	24%	27%	17%	22%	24%

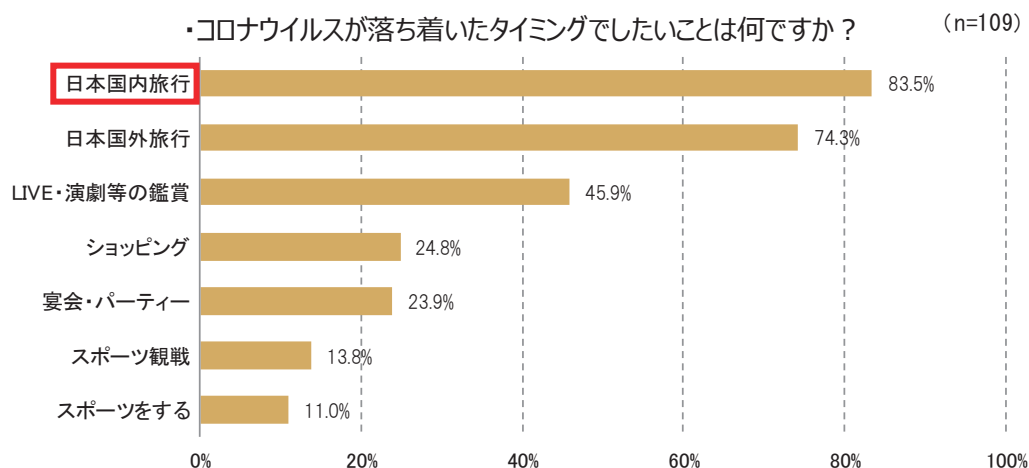
出典：トリップアドバイザー「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する旅行者調査」

⑦在留外国人や在沖外国人の観光受入による、①～⑥の取組の実践・ブラッシュアップ

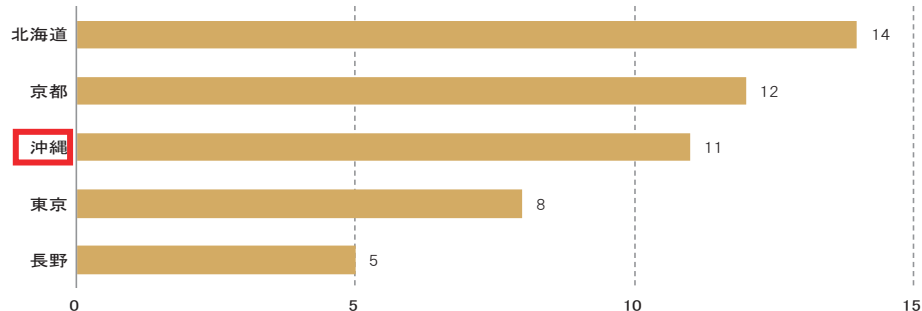
本調査結果を踏まえると、訪日外国人旅行者の受入に向けて様々な取組が必要ではあるものの、新型コロナの終息及び受入再開は未だ見通せない状況である。このため、日本国内に生活・滞在している在留外国人や沖縄県内に生活・滞在する外国人の観光受入により、外国人旅行者へのニーズ対応の実践ができるものとする。なお、複数の機関が実施した在留外国人向けの旅行に関するアンケートで、沖縄は行きたい県・地域の上に挙がっており、今後の訪沖需要が期待されることから、在留外国人をターゲットとした訪沖需要喚起のためのプロモーション・情報発信も必要な取組である。

（参考：他機関調査）「在住外国人の外出・旅行に関する意識調査」（ENGAWA 株式会社調査）

日本に居住する外国人向け英字ライフスタイルメディア「Tokyo Weekender」等を運営している ENGAWA 株式会社が実施した「在住外国人の「外出・旅行」に関する意識調査」によると、新型コロナウイルスが落ち着いたタイミングでしたいこととして、8 割超が「日本国内旅行」を希望している。また、今まで行った国内旅行の場所で一番満足度が高かった場所として、北海道、京都に次いで沖縄が挙がったほか、日本国内旅行で行きたい地域の 3 位も沖縄となった。



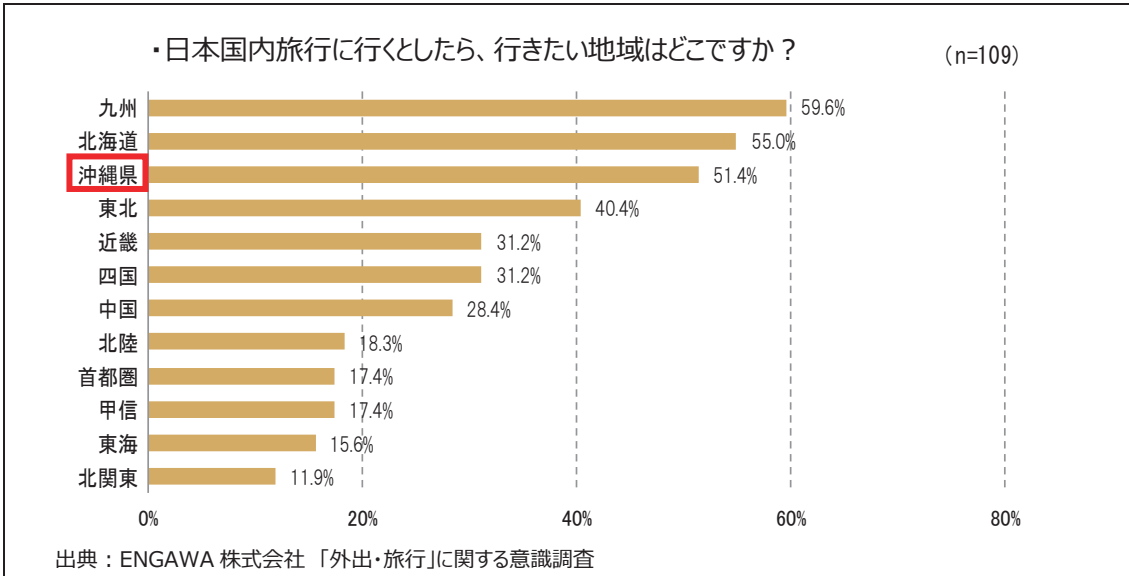
・今まで行った国内旅行の場所で一番満足度が高かった場所はどこですか？ (n=109)



出典：ENGAWA 株式会社「外出・旅行に関する意識調査」

調査方法：インターネットによるアンケート 調査期間：2020 年 7 月 10 日～7 月 26 日 回答者：在住外国人 109 人

※ ENGAWA 株式会社は、創刊 50 年以上の歴史を誇る在住外国人向け英字ライフスタイルメディア「Tokyo Weekender」を運営している。Tokyo Weekender 読者を中心とする在住外国人コミュニティに向けて、「外出・旅行」に関する意識調査を実施。



(参考：他機関調査) 在留外国人会員向け新型コロナウイルス終息後の観光に関するアンケート (株式会社 YOLO JAPAN 調査)

株式会社 YOLO JAPAN が実施した「在留外国人会員向け新型コロナ終息後の観光に関するアンケート調査」では、新型コロナ終息後に旅行に行きたい都道府県として沖縄が 1 位となっており、インバウンド再開の前に、日本国内に住む外国人の沖縄訪問が期待される。

・2020 年版 在留外国人が新型コロナ終息後に旅行に行きたい都道府県ランキング

順位	都道府県名	票数
1	沖縄県	139
2	東京都	112
3	北海道	101
4	大阪府	94
5	京都府	90
6	奈良県	52
7	広島県	40
8	福岡県	39
9	静岡県	37
10	神奈川県	36
11	千葉県	32
12	長崎県	30
13	山梨県	29
14	長野県	26
14	和歌山県	26
14	鹿児島県	26
17	熊本県	25
18	青森県	24
18	兵庫県	24
20	宮崎県	23
21	栃木県	21
21	埼玉県	21
21	鳥取県	21
24	群馬県	20
25	岐阜県	19
25	愛知県	19
27	富山県	18
28	茨城県	17
29	宮城県	16
29	石川県	16
31	岩手県	15
31	福島県	15
31	三重県	15
31	大分県	15
35	山形県	14
35	新潟県	14
35	福井県	14
38	秋田県	12
38	岡山県	12
38	高知県	12
41	香川県	11
42	滋賀県	9
42	徳島県	9
42	佐賀県	9
45	愛媛県	8
46	山口県	7
47	島根県	6

出典：株式会社 YOLO JAPAN「在留外国人会員向け新型コロナウイルス終息後の観光に関するアンケート調査」
アンケート実施期間：2020 年 4 月 27 日～5 月 11 日、回答者：63 カ国 372 名の YOLO JAPAN 会員

（参考事例）「文武両道のまち・金沢」を日本在住の外国人向けに発信【金沢文化スポーツ
コミッション】

海外との往来制限が続き、インバウンドの回復が当面見込めない中、将来の賑わい創出に向けた
布石のひとつとして、金沢文化スポーツコミッションでは、日本在住の人気米国人 YouTuber ジョン・ド
ーブ氏*を招き、「文武両道のまち・金沢」をジョン氏の目線で英語で発信する YouTube の番組制
作を依頼した。

当面は国内在住の外国人向けに金沢の魅力を伝え、将来的には海外在住の外国人に金沢に來
てもらえるよう、何年経っても色褪せない内容に仕上げている。

*ジョン氏の You Tube チャンネル→



↑「400 Year Old Japanese Cuisine | What did they Eat ?」

（400 年前の日本人の晩餐。彼らは何を食していたのか？）

加賀藩前田家の大名の食にフォーカスした。



↑ 2020 年 7 月 7 日

近江町市場を歩きながらの LIVE 配信

出典：金沢文化スポーツコミッションホームページ（<https://www.kanazawa-csc-kk.jp/news/200707john/>）

結びに

新型コロナの発生・感染拡大から1年以上が経過したが、未だに終息の見通しが立たず、世界中の観光関連事業者が困難に直面している。コロナウイルス感染症は、2002 年末～2003 年の SARS、2012 年の MERS、2019 年末からの COVID-19(新型コロナウイルス)と概ね 10 年周期で新たな型が出現しており、新型コロナ終息後も新たな感染症の出現リスクは容易に想定される。加えて観光は、豪雨や台風、地震等の自然災害や、経済情勢、国家間問題等、様々な要因の影響を受けやすい。これらを踏まえると、コロナ禍の現状を「今回限りの非常事態」として捉えるのではなく、「また起こりうる」という危機意識を持ち、かつ「コロナ前の観光の姿には戻らない」という現実を受け入れて、環境に合わせて適応していかなければならない。

本調査からは、訪日外国人観光客にとって「安全・安心」は旅行の必要条件であり、移動を含め滞在中のあらゆる場面において安全・安心の確保・周知が必要であることや、沖縄への訪問を希望する訪日外国人旅行者は、「体験型観光」へのニーズが高く、文化体験や自然体験アクティビティの種類や質の充実・ブラッシュアップといった「質」を高める取組が求められることが確認された。

日本は、これまでも海外から「清潔さ」や「治安の良さ」から「安全・安心な旅行先」として選ばれていたが、今後の「安全・安心」とは「医療体制が整い、ウイルス対策が各自治体や宿泊施設、飲食施設、商業施設等あらゆる場所で取り組まれており、かつその情報が、歓迎の意を表すメッセージとともにタイムリーに発信され、相手に伝わること」ではないだろうか。

また、観光の「質」に関しては、これまでも再三「量から質へ」と云われていたものの、国の「2030 年に訪日外国人旅行者数 6 千万人」目標や、沖縄県の「2021 年度に入域観光客数 1,200 万人、うち外国人観光客 400 万人」等、「量」の目標達成に向けたインフラ整備等が進められた。しかし今後は、「密にならない観光」がスタンダードとなり、「少人数」で「質」を求める取組（地域性を出した満足度の高いコンテンツを提供し、長い滞在時間でいかに一人あたり単価を高められるか）が求められよう。

沖縄県は、日本の 47 都道府県の一つではあるものの、亜熱帯性気候と島嶼性が育んだ「自然環境」や、「琉球王朝時代」や「米軍統治下時代」等、歴史・文化においても他の都道府県とは異なる。「日本には亜熱帯の自然環境や独自の文化を有する OKINAWA がある」ということを海外に発信し認知してもらい、来訪、体験してもらうことで、沖縄観光の「質」は高まっていくと期待したい。

最後に、調査データの利用についてご承諾いただいた株式会社日本政策投資銀行地域企画部及び公益財団法人日本交通公社観光経済研究部にこの場を借りて感謝の意を表する。